

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 保健医療学研究科 保健医療学専攻（D）

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1. <複数領域を一つの専攻として設置する必要性が不明確>

基礎となる修士課程は3つの専攻から構成されているが、本博士後期課程は一つの専攻として設置されることとなっており、その理由について一定の記載がなされているものの、必要性が不明確である。また、入学者が特定の分野に偏るなど、複数領域を一専攻とすることによる課題について対応策が見受けられず、一専攻として運営することの説明が不十分であることから、明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. <学生確保の見通しが不十分>

既設の修士課程の学生及び本学卒業生を含む医療従事者を対象としたアンケート結果をもとに、本専攻の社会的ニーズを説明しているが、道内の他の保健医療系大学院では過去数年定員割れが続いている。加えて、本学の他専攻では、定員充足率が0.00倍となっているものもあり、当該アンケート結果のみでは学生確保の見通しの根拠として不十分である。継続的かつ安定的に定員充足を見込める、学生確保の見通しの客観的根拠を示すこと。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

【教育課程等】

3. <「新設学部等の目的」と教育課程との整合性が不明確>

「大学教育を担う者としての自覚や意識と授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者の養成」を新設学部等の目的として掲げているが、教育者の養成に関する科目が少なく見受けられ、教育課程において、当該目的を達成することが可能なかが不明確であることから、体系的に教育課程が編成されていることを明確にするか、適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

4. <論文指導スケジュールが不明確>

論文指導スケジュールについて、以下の点を明確にすること。

- (1) 論文指導スケジュールにおける、「中間発表会」及び「研究計画書に関する中間審査」の位置付けが不明確であることから、論文作成スケジュールの妥当性にも留意しながら、中間発表会及び研究計画書に関する中間審査の位置付けが明確となるよう具体的に説明すること。また、論文指導スケジュールにおいて、研究計画と研究実践の時期が前後しているように見受けられることから、妥当性について明確に説明するか、修正すること。

(2) 研究指導教員については、提出された「研究計画概要」に基づき、研究科委員会において決定すると計画されているが、決定時期に関する説明がないことから、説明を行うこと。

(是正事項) 1 1

5. <博士論文審査委員の選定方法が不明確>

博士論文の審査は、「主査1名と副査2名以上の計3名以上で行うこととし、副査のうち1名は、異なる専門分野の教員を加えた審査体制とする」と計画されているが、主査と副査の選定方法に関する説明が不足していることから、説明を行うこと。(是正事項)

. 1 4

6. <博士論文の公表方法が不明確>

博士論文の公表方法が示されていないことから、論文の公表方法について明確に示すこと。(改善事項)

. 1 6

7. <履修科目が不適切>

「研究指導及び修了までのスケジュール」では、「研究開発実践研究」及び「大学教育実践研究」が、博士論文作成と並行して行われるものとなっており、学生への過度な負担が懸念されることから、学生の負担についてどのように配慮するのか具体的に説明し、必要に応じて改めること。(是正事項)

. 1 7

【教員組織等】

8. <教員組織の編成に関する説明が不整合>

教員組織の編成の基本方針における、専任教員の年齢構成に関する説明内容が、「13. 専任教員の年齢構成・学位保有状況」と整合していないことから、適切に改めること。(是正事項)

. 1 9

【名称、その他】

9. <社会人入試の受験資格等が不明確>

社会人入試の受験資格について、「教育機関や医療機関等において、医療従事者・教員・研究者等として2年以上従事した者」とあるが、大学院の入学資格としては、制度上、「大学を卒業し、大学、研究所等において、二年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者」と規定されているため、適切に修正すること。また、どのようにして修士の学位を有する者と同等以上の学力があることを確認するかが不明確であるため、説明すること。なお、社会人入試の受験資格の記載内容が、学則における入学資格と整合していないため、適切に改めること。(是正事項)

. 2 0

(是正事項) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (D)

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1. <複数領域を一つの専攻として設置する必要性が不明確>

基礎となる修士課程は3つの専攻から構成されているが、本博士後期課程は一つの専攻として設置されることとなっており、その理由について一定の記載がなされているものの、必要性が不明確である。また、入学者が特定の分野に偏るなど、複数領域を一専攻とすることによる課題について対応策が見受けられず、一専攻として運営することの説明が不十分であることから、明確に説明すること。

(対応)

本博士後期課程は一つの専攻として設置されることとなっており、その理由について一定の記載がなされているものの、必要性が不明確であり、入学者が特定の分野に偏るなど、複数領域を1専攻とすることによる課題について対応策が見受けられず、1専攻として運営することの説明が不十分であるとの審査意見を踏まえて、それぞれ対応について説明を追記することとした。

(説明)

複数領域を一つの専攻として設置する必要性について、一つの専攻として設置する理由及び一つの専攻とすることによる実現する効果等を示して明確にするとともに、一つの専攻とすることによる課題への対応について、例として、入学者が特定の分野に偏った場合の対応策を示して明確にした。

1 一つの専攻として設置する理由

専門分野の融合や変化への迅速な対応が求められる現代において、研究者には、幅広い視野や変化に対応できる柔軟性が求められており、そのためには、「幅広い知識を基盤とした高い専門性」が重要である。特に、医療に関する諸問題は、複雑化・高度化の傾向にあることから、看護分野や医療技術系分野の研究者には、周辺の専門分野や全く異なる専門分野を含む多様なものに関心を寄せ、既存の専門分野の枠にとらわれない考え方やものの見方をしながら自らの研究を推進していく能力が求められている。

一方、医療現場では、医療の質や安全性の向上及び高度化・複雑化に伴う業務の増大に対応するため、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」が推進されている。従って、大学教育においても多職種協働を意識した学生指導や教育・研究活動が重要となっており、異なる専門分野との連携や協働への意識を有した大学教員の養成が必要となっている。

このような看護分野や医療技術系分野における研究者や大学教員に求められる資質や能力を養うためには、博士後期課程における専攻間の壁を越えた連携や協力のもとに、異なる専門分野の教員の連携による教育・研究指導が可能となる体制が必要であるが、北海道内の私立大学では、当該組織体制を有している大学院の博士後期課程は設置されておらず、既設の学部及び修士課程において複数の異なる専門分野を有している本学の強みを活かして、一つの専攻として設置することとした。

なお、「グローバル化社会の大学院教育－世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために－答申」（平成23年1月31日 中央教育審議会）においても、学生の質を保証する組織的な教育・研究指導体制の確立に向けて、「異なる専門分野の複数の教員が研究指導を行う体制の確保」及び「学部・学科の上に設置されている専攻間の壁を越えた融合型の専攻への再編や、専攻間、大学間の連携・協力等により、小規模専攻の教育の質を確保」などの提言がなされている（資料1：グローバル化社会の大学院教育－世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために－答申（平成23年1月31日 中央教育審議会））。

2 一つの専攻とすることによる実現する効果等

保健医療学専攻博士後期課程の教育課程では、複数の領域に共通する科目群として「共通科目」を設定しており、各領域の専任教員による共同及びオムニバス方式等での授業科目として、「保健医療学基盤研究」と「保健医療学研究方法」の2科目を必修科目として配置しており、教員・大学院学生ともに当該授業科目の履修を通して、保健医療学分野における共通的な諸課題の理解とともに、各領域における最新の研究動向や多様な研究方法等についての理解を深めることで、保健医療学専攻博士後期課程での研究活動において、各領域との連携と協働を意識した研究活動を行うための基盤が形成される。

また、保健医療学専攻博士後期課程の研究指導では、研究指導教員1名と研究指導補助教員2名の計3名で行うこととし、研究指導補助教員のうち1名は、異なる領域の教員を加えた指導体制とするとともに、博士論文の審査においても、主査1名と副査2名以上の計3名以上で行うこととし、副査のうち1名は、専攻所属の異なる領域の教員を加えた審査体制とすることとしている。異なる領域の教員による1専攻としての組織的な研究指導や論文審査を行うことで、各領域の研究動向や研究指導に関する教員相互の理解が深まることにより、教員の指導力が向上される。

さらに、研究指導において、専攻内の異なる領域の教員が連携・協働して博士論文の中間発表や最終発表の指導にあたることに加えて、各領域の大学院学生の参加による合同での開催とすることにより、多職種への理解や専門の枠を越えて研究することの重要性への理解を深める。併せて、各領域の問題や課題等の認識を共有することにより、関連諸分野の動向を踏まえた研究活動を展開するための俯瞰力や独創力の涵養を図ることができるなど、1専攻において複数の異なる専門分野を有している強みを活かした組織的な教育・研究指導体制による教育効果が高められる。

3 一つの専攻とすることによる課題への対応

複数領域を1専攻とすることによる課題が生じた場合の対応については、入学者が特定の分野に偏った時の研究指導体制を事例とした場合、保健医療学専攻博士後期課程では、入学定員3人に対して研究指導教員と研究指導補助教員を合わせて17名配置しており、各領域に複数の研究指導教員及び研究指導補助教員を配置していることから、研究指導における対応は可能であると考えている。

また、入学者が特定の分野に偏った場合、一つの専攻とすることによる効果が期待される教育方法として掲げている、異なる領域の大学院学生の参加による博士論文の中間発表や最終発表の開催については、学年を問わず博士後期課程に在籍している大学院学生の参

加を義務付けることや、必要に応じて修了生の参加を認めることなどによる対応が可能であると考えている。

以上3点について、「設置の趣旨等を記載した書類」の1(3)1専攻として設置する理由に記載することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (1～3 ページ)

新	旧
<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 1 専攻として設置する理由</p> <p><u>専門分野の融合や変化への迅速な対応が求められる現代において、研究者には、幅広い視野や変化に対応できる柔軟性が求められており、そのためには、「幅広い知識を基盤とした高い専門性」が重要である。特に、医療に関する諸問題は、複雑化・高度化の傾向にあることから、看護分野や医療技術系分野の研究者には、周辺の専門分野や全く異なる専門分野を含む多様なものに関心を寄せ、既存の専門分野の枠にとらわれない考え方やものの見方をしながら自らの研究を推進していく能力が求められている。</u></p> <p><u>一方、医療現場では、医療の質や安全性の向上及び高度化・複雑化に伴う業務の増大に対応するため、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」が推進されている。従って、大学教育においても多職種協働を意識した学生指導や教育・研究活動が重要となっており、異なる専門分野との連携や協働への意識を有した大学教員の養成が必要となっている。</u></p> <p><u>このような看護分野や医療技術系分野における研究者や大学教員に求められる資質や能力を養うためには、博士後期課程における専攻間の壁を越えた連携や協力のもとに、異なる専門分野の教員の連携による教育・研究指導が可能となる体制が必要であるが、北海道内の私立大学では、当該組織体制を有している大学院の博士後期課程は設置されておらず、既設の学部及び修士課程において複数の異なる専門分野を有している本学の強みを活かして、一つの専攻として設置することとした。</u></p> <p><u>なお、「グローバル化社会の大学院教育－世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために－答申」(平成23年1月31日 中央教育審議会)においても、学生の質を保証する組織的な教育・研究指導體制の確立に向けて、「異なる専門分野の複数の教員が研究指導を行う体制の確保」及び「学部・学科の上に設置されている専攻間の壁を越えた融合型の専攻への再編や、専攻間、大学間の連携・協力等により、小規模専攻の教育の質を確保」などの提言がなされている(資料1：グローバル化社会の大学院教育－世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために－答申(平成23年1月31日 中央教育審議会))。</u></p> <p><u>保健医療学専攻博士後期課程の教育課程では、複数の領域に共通する科目群として「共通科目」を設</u></p>	<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 1 専攻として設置する理由</p> <p><u>現代社会では、学術研究の著しい進展や社会の変化に対応できる幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材の養成が求められており、特に社会で必要とされているのは、細分化された個々の領域における研究とそれらを統合した総合的な学問とのバランスのとれた発展であり、大学院教育においては、このような社会の要請を踏まえた上で、それぞれの課程や専攻の目的の明確化とそれに沿った教育研究体制の整備が求められている。</u></p> <p><u>一方、「グローバル化社会の大学院教育－世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために－答申」(平成23年1月31日 中央教育審議会)では、大学院教育の改善方策として、学生の質を保証する組織的な教育・研究指導體制の確立に向けて、「異なる専門分野の複数の教員が研究指導を行う体制の確保」、「学部・学科の上に設置されている専攻間の壁を越えた融合型の専攻への再編や、専攻間、大学間の連携・協力等により、小規模専攻の教育の質を確保」、「定員の充足状況や社会的需要等を総合的に勘案し、自ら入学定員を見直す」ことなどの提言がなされている(資料1：グローバル化社会の大学院教育－世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために－答申(平成23年1月31日 中央教育審議会))。</u></p> <p><u>このことから、保健医療学専攻博士後期課程では、基礎となる修士課程との継続性と専門性を考慮しつつ、各専門分野における進学需要の動向等を踏まえた柔軟的な教育研究を可能とするとともに、各専門分野における相互的な教育研究の高度化に向けて、高い専門性と幅広い視野を備え、専門分野の枠にとらわれない独創性・創造性を備えた人材の養成に向けて、1専攻として設置することとした。</u></p> <p><u>保健医療学専攻博士後期課程を1専攻とすることで、分野間及び教員間の有機的な連携、他の分野や領域への横展開を意識した教育活動、さらには、専門の枠を越えて研究することの重要性を理解した人材の育成を目指すとともに、複数の異なる分野の教員による密接な研究指導の下、多様な大学院学生が切磋琢磨しながら主体的な研究を遂行することにより、関連諸分野の動向を踏まえた研究活動を展開するための俯瞰力や独創力の修得を目指すものである。</u></p> <p><u>また、保健医療学専攻博士後期課程では、他大学院における定員の充足状況や社会的な需要等を総合的に勘案した上で、入学定員3人の小規模専攻として設置することから、大学院学生が互いに切磋琢磨</u></p>

定しており、各領域の専任教員による共同及びオムニバス方式等での授業科目として、「保健医療学基盤研究」と「保健医療学研究方法」の2科目を必修科目として配置しており、教員・大学院学生ともに当該授業科目の履修を通して、保健医療学分野における共通的な諸課題の理解とともに、各領域における最新の研究動向や多様な研究方法等についての理解を深めることで、保健医療学専攻博士後期課程での研究活動において、各領域との連携と協働を意識した研究活動を行うための基盤が形成される。

また、保健医療学専攻博士後期課程の研究指導では、研究指導教員1名と研究指導補助教員2名の計3名で行うこととし、研究指導補助教員のうち1名は、異なる領域の教員を加えた指導体制とするとともに、博士論文の審査においても、主査1名と副査2名以上の計3名以上で行うこととし、副査のうち1名は、専攻所属の異なる領域の教員を加えた審査体制とすることとしている。異なる領域の教員による1専攻としての組織的な研究指導や論文審査を行うことで、各領域の研究動向や研究指導に関する教員相互の理解が深まることにより、教員の指導力が向上される。

さらに、研究指導において、専攻内の異なる領域の教員が連携・協働して博士論文の中間発表や最終発表の指導にあたることに加えて、各領域の大学院学生の参加による合同での開催とすることにより、多職種への理解や専門の枠を越えて研究することの重要性への理解を深める。併せて、各領域の問題や課題等の認識を共有することにより、関連諸分野の動向を踏まえた研究活動を展開するための俯瞰力や独創力の涵養を図ることができるなど、1専攻において複数の異なる専門分野を有している強みを活かした組織的な教育・研究指導体制による教育効果が高められる。

複数領域を1専攻とすることによる課題が生じた場合の対応については、入学者が特定の分野に偏った時の研究指導体制を事例とした場合、保健医療学専攻博士後期課程では、入学定員3人に対して研究指導教員と研究指導補助教員を合わせて17名配置しており、各領域に複数の研究指導教員及び研究指導補助教員を配置していることから、研究指導における対応は可能であると考えている。

また、入学者が特定の分野に偏った場合、一つの専攻とすることによる効果が期待される教育方法として掲げている、異なる領域の大学院学生の参加による博士論文の中間発表や最終発表の開催については、学年を問わず博士後期課程に在籍している大学院学生の参加を義務付けることや、必要に応じて修了生の参加を認めることなどによる対応が可能であると考えている。

一方、教員組織の運営においては、授業科目の位置付けや到達目標、他の授業科目の内容や範囲などについて、教員の相互理解を図るための研修会を実施するとともに、他分野の教員の授業を参観して、自らの授業の内容及び方法に役立てるための教員相互の授業参観を実施することとしている。

さらに、専門分野の異なる複数の教員が協同して授業開発や授業計画の策定にあたりるとともに、授業

磨する環境を確保する必要があるとともに、それぞれの基礎となる学科の上に設置されている専攻間の壁を超え、複数の異なる専攻を設置している本学の強みを活かした専攻とすることで、大学院教育としての特色化を図ることとしている。

これらの教育目標の達成や特色化に向けての具体的な方策としては、教育課程の編成においては、複数の分野に共通する科目群として「共通科目」を置き、異なる専門分野の教員や大学院学生同士がともに学修する環境を設けることで、多職種への理解をより一層深めるとともに、高度化・多様化する医療分野の動向等を見据え、問題や課題等の認識を共有することにより、自らの研究課題の設定や実際の研究活動に活かすなど、学修の幅を広げることとしている。

さらに、研究指導は、研究指導教員1名と研究指導補助教員2名の計3名で行うこととし、研究指導補助教員のうち1名は、異なる分野の教員を加えた指導体制とするとともに、博士論文の中間発表や最終発表も異なる専門分野の大学院学生と教員による合同開催で実施する。

また、博士論文の審査においても、主査1名と副査2名以上の計3名以上で行うこととし、副査のうち1名は、異なる専門分野の教員を加えた審査体制とすることとしており、組織的かつ多角的な視点からの研究指導や論文審査を行うことで、分野間の連携の強化と徹底を図ることとしている。

一方、教員組織の運営においては、授業科目の位置付けや到達目標、他の授業科目の内容や範囲などについて、教員の相互理解を図るための研修会を実施するとともに、他分野の教員の授業を参観して、自らの授業の内容及び方法に役立てるための教員相互の授業参観を実施することとしている。

さらに、専門分野の異なる複数の教員が協同して授業開発や授業計画の策定にあたりるとともに、授業

<p>科目及び研究指導の内容や方法の改善のための研究会や授業科目ごとの教育目標を効果的に達成するためのオリジナルのテキストや教材を協同で開発するための研修会（FD等）を実施することとしている。</p>	<p>科目及び研究指導の内容や方法の改善のための研究会や授業科目ごとの教育目標を効果的に達成するためのオリジナルのテキストや教材を協同で開発するための研修会（FD等）を実施することとしている。</p>
--	--

(是正事項) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (D)

2. <学生確保の見通しが不十分>

既設の修士課程の学生及び本学卒業生を含む医療従事者を対象としたアンケート結果をもとに、本専攻の社会的ニーズを説明しているが、道内の他の保健医療系大学院では過去数年定員割れが続いている。加えて、本学の他専攻では、定員充足率が0.00倍となっているものもあり、当該アンケート結果のみでは学生確保の見通しの根拠として不十分である。継続的かつ安定的に定員充足を見込める、学生確保の見通しの客観的根拠を示すこと。

(対応)

既設の修士課程の学生及び本学卒業生を含む医療従事者を対象としたアンケート結果のみでは学生確保の見通しの根拠として不十分である。継続的かつ安定的に定員充足を見込める、学生確保の見通しの客観的根拠を示すこととの審査意見を踏まえて、アンケート結果の補足説明及び追加調査並びに修士課程における入学状況について追記することとした(説明資料1:進学需要調査集計表)、(説明資料2:「資料7:保健医療学研究科 修士課程入試状況」)。

(説明)

学生確保の見通しを示す際、一般的には近隣の他大学等の状況や入学意向のアンケート調査をエビデンスとすることが多いことから、今般の認可申請においても同様のアンケート調査を行った。その中でも入学定員3人という少人数で設定した場合において、本学としては特に本博士後期課程の基礎となる修士課程からの入学意向(持ちあがり)が重要であると考えている。

その結果、アンケート調査で示したとおり、開設時には本学保健医療学研究科修士課程の看護学専攻から1人、リハビリテーション科学専攻から2人、医療技術学専攻から1人の計4人が進学するという結果を得た。審査結果の意見を受け、このアンケート調査において入学を希望した修士課程の2年次(調査時1年次)に在籍する大学院学生4人に対し、各専攻から進学意志について改めて確認したところ、全員進学の意向があることを確認している。

また、審査意見を踏まえ、追加調査として開設2年目の入学者となる修士課程の1年次生14人に対し同様の調査を実施した結果、こちらも入学定員を超える5人が「進学を希望する」と回答している。調査対象とした基礎となる保健医療学研究科修士課程3専攻は、平成30年度に開設してから2年が経過し、下表に示すとおり各専攻とも入学定員は概ね確保されており、このような状況から博士後期課程への進学も継続的かつ安定的に確保できると考えている。

<保健医療学研究科 修士課程入試状況>

	入学定員	平成30年度					平成31年度(令和元年度)				
		志願者	受験者	合格者	入学者	超過率	志願者	受験者	合格者	入学者	超過率
看護学専攻	5	6	6	6	6	1.20	7	7	7	7	1.40
リハビリテーション科学専攻	4	4	4	4	4	1.00	3	3	3	3	0.75
医療技術学専攻	4	5	5	5	5	1.25	6	6	6	4	1.00
合計	13	15	15	15	15	1.15	16	16	16	14	1.07

次年度以降の修士課程の進学者に対しては、指導教員からの進学支援指導を継続的に行っていくとともに、学外からの入学希望者に対しても博士後期課程における学位授与方針、教育課程編成の方針、入学者の受け入れ方針をはじめとする様々な教育情報を本学ホームページに掲載し広く広報する。

審査意見で指摘された本学他専攻の定員充足率0.00倍については、大学院全体の重要な事柄として捉え、各研究科において定員充足に向けた各種方策や実効性ある取り組みをしていくこととする。また、方策の一つとして平成30年度からは博士後期課程に在籍する在籍生を対象に「学力・人物ともに優秀な大学院生に対し、授業料の半額を奨学金として給付する」制度を導入し経済的負担の軽減を図るなど、入学しやすい環境づくりに努めている。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 (1～3ページ)

新	旧
<p>1 保健医療学専攻博士後期課程の学生確保の見通し及び申請者としての取組状況</p> <p>(1) 学生の確保の見通し</p> <p>① 定員充足の見込み(概要)</p> <p><u>学生確保の見通しを示す際、入学定員3人という少人数で設定した場合において、本学としては特に本博士後期課程の基礎となる修士課程からの入学意向が重要であると考えている。基礎となる保健医療学研究科修士課程3専攻は、平成30年度に開設してから2年が経過し、各専攻とも入学定員は概ね確保されており、進学の意向があれば博士後期課程への進学も継続的かつ安定的に確保できると考えている(資料7:保健医療学研究科 修士課程入試状況)。</u></p> <p>保健医療学専攻博士後期課程では、保健医療系大学院における人材養成の方向性及び実際の研究機関等を対象とした保健医療系大学院の必要性や人材需要に関する調査結果等を踏まえた上で、北海道内における保健医療系大学院の設置状況及び本大学院の保健医療学研究科修士課程の在籍生等に対する進学需要調査の結果等を総合的に勘案して、入学定員を3人としていることから、定員の充足を見込むことができるものと考えている。</p> <p>② 定員充足の根拠となる調査結果の概要</p> <p>ア 北海道内の保健医療系大学院の設置状況</p> <p>(省略)</p> <p>イ 保健医療学専攻博士後期課程への進学需要に関する調査結果</p> <p>保健医療学専攻博士後期課程の設置計画を策定するにあたり、学生の確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、<u>開設時に第1期生となる本大学院の保健医療学研究科の修士課程に在籍している平成30年度1年次生及び北海道内の医療機関等に勤務している者を対象として、保健医療学専攻博士後期課程において養成する人材及び受験意向や進学意向等に関するアンケート調査を実施した。</u></p>	<p>1 保健医療学専攻博士後期課程の学生確保の見通し及び申請者としての取組状況</p> <p>(1) 学生の確保の見通し</p> <p>① 定員充足の見込み(概要)</p> <p><u>(追加)</u></p> <p>保健医療学専攻博士後期課程では、保健医療系大学院における人材養成の方向性及び実際の研究機関等を対象とした保健医療系大学院の必要性や人材需要に関する調査結果等を踏まえた上で、北海道内における保健医療系大学院の設置状況及び本大学院の保健医療学研究科修士課程の在籍生等に対する進学需要調査の結果等を総合的に勘案して、入学定員を3人としていることから、定員の充足を見込むことができるものと考えている。</p> <p>② 定員充足の根拠となる調査結果の概要</p> <p>ア 北海道内の保健医療系大学院の設置状況</p> <p>(省略)</p> <p>イ 保健医療学専攻博士後期課程への進学需要に関する調査結果</p> <p>保健医療学専攻博士後期課程の設置計画を策定するにあたり、学生の確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、<u>本大学院の保健医療学研究科の修士課程に在籍している1年次生及び北海道内の医療機関等に勤務している者を対象として、保健医療学専攻博士後期課程において養成する人材及び受験意向や進学意向等に関するアンケート調査を実施した。</u></p>

(省略)

なお、本大学院の保健医療学研究科の修士課程に在籍している平成30年度1年次生で、保健医療学専攻博士後期課程に「進学を希望する」と回答した者の在籍専攻は、看護学専攻1人、リハビリテーション科学専攻2人、医療技術学専攻1人となっており、北海道内の医療機関等に勤務している者で、本大学院の保健医療学専攻博士後期課程に「進学を希望する」と回答した者の職種・分野等は、看護師1人、臨床工学技士1人、診療放射線技師2人となっている。

また、第2期生となる令和元年度修士課程1年次生にも同様のアンケートを追加で実施した結果、保健医療学専攻博士後期課程に「進学を希望する」と回答した者の在籍専攻は、看護学専攻3人、リハビリテーション科学専攻1人、医療技術学専攻1人となった。

このような、本大学院の保健医療学研究科修士課程に在籍している大学院学生及び北海道内の医療機関等に勤務している者に限定した調査においても、保健医療学専攻博士後期課程への進学意向がうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる(資料2:進学需要調査集計表)。

(省略)

(省略)

なお、本大学院の保健医療学研究科の修士課程に在籍している1年次生で、保健医療学専攻博士後期課程に「進学を希望する」と回答した者の在籍専攻は、看護学専攻1人、リハビリテーション科学専攻2人、医療技術学専攻1人となっており、北海道内の医療機関等に勤務している者で、本大学院の保健医療学専攻博士後期課程に「進学を希望する」と回答した者の職種・分野等は、看護師1人、臨床工学士1人、診療放射線技師2人となっている。

(追加)

このような、本大学院の保健医療学研究科修士課程に在籍している1年次生及び北海道内の医療機関等に勤務している者に限定した調査においても、保健医療学専攻博士後期課程への進学意向がうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる(資料2:進学需要調査集計表)。

(省略)

(是正事項) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (D)

【教育課程等】

3. <「新設学部等の目的」と教育課程との整合性が不明確>

「大学教育を担う者としての自覚や意識と授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者の養成」を新設学部等の目的として掲げているが、教育者の養成に関する科目が少なく見受けられ、教育課程において、当該目的を達成することが可能なかが不明確であることから、体系的に教育課程が編成されていることを明確にするか、適切に改めること。

(対応)

「大学教育を担う者としての教育者の養成」を新設学部等の目的として掲げているが、教育者の養成に関する科目が少なく見受けられ、教育課程において、当該目的を達成することが可能なかが不明確であるとの審査意見を踏まえて、教育者の養成及び教育課程の編成について説明し、教育者養成に関する科目である「大学教育基盤研究」の授業科目の概要及びシラバスを改めることとした。(説明資料3:「シラバス 大学教育基盤研究」)

(説明)

教育者の養成においては、大学教育の理念と大学教員の職務や大学制度の理解、大学教育における学生指導や教育相談の知識及び方法の理解、さらには専門領域の教育における授業運営や教育方法の理解など、大学において学生を教育指導する職務や内容等に関する基礎的理解のもとに、その学んだ知識や技能を実際の指導場面で実践するための能力の修得が必要になると考えられる。

このことから、保健医療学専攻博士後期課程では、教育者として学生を教育指導する職務に関する知識の基盤を形成するための科目として、「大学教育基盤研究」2単位を配置した上で、大学教育の実際を体験的・総合的に理解させ、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を修得させるための科目として、「大学教育実践研究」2単位を配置することにより、体系的な教育課程の編成としている。

しかしながら、保健医療学専攻博士後期課程の目的として掲げている教育者の養成に関する科目が少なく見受けられ、教育課程において、当該目的を達成することが可能なかが不明確であるとの審査意見を踏まえて再検討し、「大学教育基盤研究」のシラバスの授業計画における授業内容を見直し、当該目的を達成することが可能となる、より充実した教育内容となるよう改めることとした。

具体的には、「大学教育基盤研究」は、学生を教育指導する職務や内容等に関する知識の基盤を形成するための科目であることを踏まえて、大学教育の理念や大学教員の職務と大学制度の理解及び大学教育における学生指導や教育相談の知識及び方法の理解とともに、専門領域の教育における授業運営や教育方法の理解に向け、充実した教育内容となるよう授業科目の概要及びシラバスを改めた。

(新旧対照表) 授業科目の概要 (4 ページ)

新	旧
<p>大学教育基盤研究 (概要)</p> <p>高等教育機関としての大学の役割と責務や大学教育の意義や目的と在り方について概説した上で、大学教育における教員の役割や使命と教員に求められるものや教員としての適格性など、教育者としての職務における認識を深めるとともに、大学教育の歴史の変遷から高等教育政策、教育行政、教育制度、関係法令等についての理解及び学士力の構成要素と学士力に対する授業の役割や価値の認識と大学教育の質向上に向けた教育改革の取り組み、<u>大学経営や地域連携</u>など、現代の大学教育が抱える課題や問題について考察する。</p> <p>また、授業目標の設定、到達能力の明示、授業デザイン、成績評価、シラバスの作成、自己点検等の授業設計と評価について理解するとともに、協同学習やPBL等の学習方法及びフィールド学習等の授業運営の技法について理解する。さらに、話し方、動機付け、学習意欲の醸成、演習・実習指導、実務家導入等の講義や実習の技法、教材作成、eラーニング、双方向対話型授業、学外との連携、理解度の把握、情報技術の活用などの授業運営や教育方法等について実践的な側面から考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (18 出口寿久／5回) 大学教育の目的や大学教員の役割及び大学教育に関する社会的・制度的及び経営的事項について考察する。 (20 秋山敏晴／5回) 大学教育における<u>学生指導や教育相談等の意義や方法と大学教育が抱える課題や問題</u>について考察する。 (2) 福良 薫／5回 看護学教育における<u>授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等</u>について実践的な側面から考究する。 (1) 宮坂智哉／5回 理学療法学教育における<u>授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等</u>について実践的な側面から考究する。 (3) 早川康之／5回 義肢装具学教育における<u>授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等</u>について実践的な側面から考究する。 (5) 菅原俊継／5回 臨床工学教育における<u>授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等</u>について実践的な側面から考究する。 (4) 島雄大介／5回 放射線技術学教育における<u>授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等</u>について実践的な側面から考究する。</p>	<p>大学教育基盤研究 (概要)</p> <p>高等教育機関としての大学の役割と責務や大学教育の意義や目的と在り方について概説した上で、大学教育における教員の役割や使命と教員に求められるものや教員としての適格性など、教育者としての職務における認識を深めるとともに、大学教育の歴史の変遷から高等教育政策と制度や関係法令等についての理解及び学士力の構成要素と学士力に対する授業の役割や価値の認識と大学教育の質向上に向けた教育改革の取り組みなど、現代の大学教育が抱える課題や問題について考察する。</p> <p>また、授業目標の設定、到達能力の明示、授業デザイン、成績評価、シラバスの作成、自己点検等の授業設計と評価について理解するとともに、協同学習やPBL等の学習方法及びフィールド学習等の授業運営の技法について理解する。さらに、話し方、動機付け、学習意欲の醸成、演習・実習指導、実務家導入等の講義や実習の技法、教材作成、eラーニング、双方向対話型授業、学外との連携、理解度の把握、情報技術の活用などの授業運営や教育方法等について実践的な側面から考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (18 出口寿久／5回) 大学教育の目的や大学教員の役割及び大学教育が抱える課題や問題について考察する。 (20 秋山敏晴／5回) 大学教育における<u>授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法</u>について考察する。 (9) 福良 薫／5回 看護学教育における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。 (8) 宮坂智哉／5回 理学療法学教育における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。 (12) 早川康之／5回 義肢装具学教育における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。 (16) 菅原俊継／5回 臨床工学教育における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。 (13) 島雄大介／5回 放射線技術学教育における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。</p>

4. <論文指導スケジュールが不明確>

論文指導スケジュールについて、以下の点を明確にすること。

- (1) 論文指導スケジュールにおける、「中間発表会」及び「研究計画書に関する中間審査」の位置付けが不明確であることから、論文作成スケジュールの妥当性にも留意しながら、中間発表会及び研究計画書に関する中間審査の位置付けが明確となるよう具体的に説明すること。また、論文指導スケジュールにおいて、研究計画と研究実践の時期が前後しているように見受けられることから、妥当性について明確に説明するか、修正すること。
- (2) 研究指導教員については、提出された「研究計画概要」に基づき、研究科委員会において決定すると計画されているが、決定時期に関する説明がないことから、説明を行うこと。

(対応)

- (1) 論文作成スケジュールの妥当性にも留意しながら、中間発表会及び研究計画書に関する中間審査の位置付けが明確となるよう具体的に説明すること。また、論文指導スケジュールにおいて、研究計画と研究実践の時期が前後しているように見受けられることから、妥当性について修正することとの審査意見を踏まえて、研究計画について整理し修正することとした(説明資料4:「研究指導及び修了までのスケジュール表」)。
- (2) 研究指導教員については、研究科委員会において決定すると計画されているが、決定時期に関する説明がないことの審査意見を踏まえて、決定時期を追記した(説明資料4:「研究指導及び修了までのスケジュール表」)。

(説明)

- (1) 「中間発表会」及び「研究計画に関する中間審査」の位置付けが不明確であるとの審査意見について、当初計画では2年次後期に中間発表会を実施し、3年次前期には2年次後期の「中間発表会」の結果を踏まえ、4月開催の研究科委員会において研究計画書に関する中間審査を行い、研究の質や計画の妥当性から倫理的な側面についての助言・指導を行うことにより、研究計画の内容がより具体的となり論文作成着手を円滑になることを期待した計画としていた。

審査意見を踏まえ、論文指導スケジュールにおける位置付けと研究科委員会において「研究計画に関する中間審査」を行う必要性について学内で検討した結果、2年次後期に行う中間発表会後には、研究指導教員から「研究の問題点や解決の方法及び必要に応じて研究計画書の修正についての助言・指導を行い、研究の水準を高めるとともに、研究の円滑な遂行を図ることとしている」としており、この段階で既に研究に対する指導・助言が十分に行えることから、研究科委員会において中間審査を行う必要性は無いと判断した。この計画変更をすることにより、大学院学生は中間発表会後に博士論文の構着想手などの研究活動の行程を円滑に進めることができ、3年次前期の当初から論文作成の着手が可能となり、論文作成にかかる時間を十分に確保することとなる。

従って、研究指導スケジュールの3年次前期に記載の中間審査に関する部分を削除することとし、2年次前期の追記を含め整理することとした。併せて「研究指導及び修了までのスケジュール表」の3年次前期に記載の「研究計画中間審査」も削除することとした。

研究計画と研究実践の時期が前後しているとの審査意見については、1年次前期に研究計画書を提出し、1年次後期終了時に研究計画が確定、2年次前期からの研究実践を経て、2年次後期に中間発表会を行うこととしていることから、研究計画と実践の時期が前後していることはないと考えている。また、「研究指導及び修了までのスケジュール表」の3年次前期に記載の「研究計画中間審査」を削除することにより、研究計画と研究実践の関係を整理し修正した。

研究計画については、「設置の趣旨等を記載した書類」の5（4）研究指導スケジュールの記載内容を「1年次前期では、研究計画の概要に基づいて研究計画書を提出し、関連する論文の検索から文献のクリティーク指導、文献レビューの作成指導を経て、1年次前期終了時に研究計画の概要に関する報告を行う。1年次後期では、研究課題の明確化と研究方法の具体化に向けた指導及び研究計画の指導を行うとともに、研究計画書に関する報告会を経て、1年次後期終了時に研究計画を確定し、必要に応じて倫理審査申請書を提出する。2年次前期では、研究計画書の進捗状況の確認を行うとともに、計画の実施、遂行が困難な場合は履修計画の変更を促す。2年次後期では、研究計画書に基づく研究の進捗状況を確認するための中間発表会を開催し、研究の問題点や解決の方法及び必要に応じて研究計画書の修正についての助言・指導を行い、研究の水準を高めるとともに、研究の円滑な遂行を図る。

3年次前期では、研究結果の分析から研究成果を論理的かつ系統的に考察させるとともに、博士論文の提出に向けた論文作成についての指導を行う。前述の研究指導を踏まえ、3年次後期に博士論文の審査にあたる審査委員として、主査1名と副査2名以上を選定し、学位論文発表会、学位論文審査、筆記又は口述による最終試験を経て、合格者に対して学位を授与する。」として適切に記載することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15 ページ)

新	旧
<p>5 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 (4) 研究指導スケジュール</p> <p>(省略)</p> <p>2年次前期では、研究計画書の進捗状況の確認を行うとともに、計画の実施、遂行が困難な場合は履修計画の変更を促す。2年次後期では、研究計画書に基づく研究の進捗状況を確認するための中間発表会を開催し、研究の問題点や解決の方法及び必要に応じて研究計画書の修正についての助言・指導を行い、研究の水準を高めるとともに、研究の円滑な遂行を図る。</p> <p>3年次前期では、研究結果の分析から研究成果を論理的かつ系統的に考察させるとともに、博士論文の提出に向けた論文作成についての指導を行う。</p> <p><u>(削除)</u></p> <p>(省略)</p>	<p>5 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 (4) 研究指導スケジュール</p> <p>(省略)</p> <p>2年次前期では、研究計画書の進捗状況の確認を行うとともに、2年次後期では、研究計画書に基づく研究の進捗状況を確認するための中間発表会を開催し、研究の問題点や解決の方法及び必要に応じて研究計画書の修正についての助言・指導を行い、研究の水準を高めるとともに、研究の円滑な遂行を図る。</p> <p>3年次前期では、研究結果の分析から研究成果を論理的かつ系統的に考察させるとともに、博士論文の提出に向けた論文作成についての指導を行う。</p> <p><u>なお、2年次後期の「中間発表会」の結果を踏まえ、研究科委員会において研究計画書に関する中間審査を行うとともに、研究の質や計画の妥当性から倫理的な側面についての助言・指導を行う。</u></p> <p>(省略)</p>

- (2) 研究指導教員の決定は、4月に開催する研究科委員会で審議・決定するため決定時期を「設置の趣旨等を記載した書類」の5(4)研究指導スケジュールに追記した。併せて、「研究指導及び修了までのスケジュール表」に研究指導教員決定時期を追記することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (14 ページ)

新	旧
<p>5 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 (4) 研究指導スケジュール</p> <p>(省略)</p> <p>研究指導教員については、大学院学生の希望を尊重するとともに、入学前の事前相談から入学後のガイダンス及び個別の履修相談を経て提出された「研究計画概要」に基づき、4月開催の研究科委員会において各大学院学生の研究指導教員を決定するとともに、個々の大学院学生の関心領域や問題意識を確認しながら、それぞれの研究計画の指導にあたることとする。</p> <p>(省略)</p>	<p>5 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 (4) 研究指導スケジュール</p> <p>(省略)</p> <p>研究指導教員については、大学院学生の希望を尊重するとともに、入学前の事前相談から入学後のガイダンス及び個別の履修相談を経て提出された「研究計画概要」に基づき、研究科委員会において各大学院学生の研究指導教員を決定するとともに、個々の大学院学生の関心領域や問題意識を確認しながら、それぞれの研究計画の指導にあたることとする。</p> <p>(省略)</p>

(是正事項) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (D)

5. <博士論文審査委員の選定方法が不明確>

博士論文の審査は、「主査1名と副査2名以上の計3名以上で行うこととし、副査のうち1名は、異なる専門分野の教員を加えた審査体制とする」と計画されているが、主査と副査の選定方法に関する説明が不足していることから、説明を行うこと。

(対応)

主査と副査の選定方法に関する説明が不足しているとの審査意見を踏まえて、選定方法が明確となるように追記することとした(説明資料4:「研究指導及び修了までのスケジュール表」)。

(説明)

主査及び副査の選任条件については、「保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程の担当教員のうち教員資格審査において、主査はD〇合、副査はD〇合及びD合と判定された者とする。また、完成年度以降は学内審査において主査は研究指導教員、副査は研究指導教員及び研究指導補助教員と判定された者とする。」としている。また、主査及び副査の選定方法・時期については、「専攻長が研究論文の専門性を考慮した上で、当該大学院学生の研究指導教員及び研究指導補助教員以外から主査及び副査を推薦し、1月に開催する研究科委員会において審議・決定する」こととしていることから、「設置の趣旨等を記載した書類」の5(6)学位論文審査体制に追記することとした。併せて、「研究指導及び修了までのスケジュール表」に審査委員の選任時期を追記することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (16ページ)

新	旧
<p>5 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>(6) 学位論文審査体制</p> <p>学位論文の審査体制については、「北海道科学大学学位規程」に基づき、学長は、学位授与の申請をする者から提出された学位論文の受理の可否並びに審査を研究科委員会に付託することとしている。</p> <p><u>1月に開催する研究科委員会において、保健医療学研究科博士後期課程の担当教員から、主査1名及び副査2名以上を選任する。主査及び副査の選任条件は、保健医療学研究科の担当教員のうち教員資格審査において、主査はD〇合、副査はD〇合及びD合と判定された者とする。なお、完成年度以降は、学内審査において主査は研究指導教員、副査は研究指導教員及び研究指導補助教員と判定された者とする。また、主査及び副査の選定方法については、専攻長が研究論文の専門性を考慮した上で当該大学院学生の研究指導教員及び研究指導補助教員以外から主査及び副査を推薦し、研究科委員会において審議・決定する。ただし、論文内容が多岐に涉る場合で、審査のため必要と認めるときは、副査に他研究科及び他の大学院又は研究所等の教員等を加</u></p>	<p>5 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>(6) 学位論文審査体制</p> <p>学位論文の審査体制については、「北海道科学大学学位規程」に基づき、学長は、学位授与の申請をする者から提出された学位論文の受理の可否並びに審査を研究科委員会に付託することとしており、<u>研究科委員会は、保健医療学研究科の担当教員のうちから、審査委員として主査1名及び副査2名以上を選定することとしている。ただし、審査のため必要と認めるときは、副査に他研究科及び他の大学院又は研究所等の教員等を加えることができ、幅広い視野から総合的かつ厳正な審査が行われるよう配慮することとしている。</u></p>

<p>えることができ、幅広い視野から総合的かつ厳正な審査が行われるよう配慮することとしている。</p> <p>(省略)</p>	<p>(省略)</p>
---	-------------

(改善事項) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (D)

6. <博士論文の公表方法が不明確>

博士論文の公表方法が示されていないことから、論文の公表方法について明確に示すこと。

(対応)

博士論文の公表方法が示されていないとの審査意見を踏まえて、論文の公表方法についての説明を追記した。

(説明)

本学の「北海道科学大学学位規程」に学位授与の報告として第14条に「本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3月以内に学位授与報告書を文部科学大臣に提出する。」

学位論文要旨等の公表として第15条に「本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3月以内にその学位論文の内容の要旨及び論文審査結果の要旨をインターネットの利用により公表する。」

学位論文の公表として、第16条に「博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内にその学位論文の全文を公表するものとする。ただし、学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。」第2項に「前項による公表は、インターネットの利用により行う。」としていることから、「設置の趣旨等を記載した書類」の5(6)学位論文審査体制に同様の説明を追記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (16ページ)

新	旧
<p>5 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 (6) 学位論文審査体制 (省略)</p> <p>なお、研究科委員会は、学位論文を提出した者に学位論文発表会を開催し、申請者にその論文内容の報告を求めるとともに、審査委員の報告に基づき審議し、学位を授与すべきか否かを決議することとしており、学長は、研究科委員会の審議結果に基づき、学位を授与すべき者には所定の学位記を授与し、不合格者にはその旨を通知することとしている。</p> <p><u>また、本学大学院は、博士の学位を授与したときは、3ヶ月以内に学位授与報告書を文部科学大臣に提出するとともに、学位論文の内容の要旨及び論文審査結果の要旨をインターネットにより公表する。学位を授与された者は、1年以内にその学位論文の全文をインターネットにより公表することとしている。</u></p>	<p>5 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 (6) 学位論文審査体制 (省略)</p> <p>なお、研究科委員会は、学位論文を提出した者に学位論文発表会を開催し、申請者にその論文内容の報告を求めるとともに、審査委員の報告に基づき審議し、学位を授与すべきか否かを決議することとしており、学長は、研究科委員会の審議結果に基づき、学位を授与すべき者には所定の学位記を授与し、不合格者にはその旨を通知することとしている。</p> <p><u>(追加)</u></p>

7. <履修科目が不適切>

「研究指導及び修了までのスケジュール」では、「研究開発実践研究」及び「大学教育実践研究」が、博士論文作成と並行して行われるものとなっており、学生への過度な負担が懸念されることから、学生の負担についてどのように配慮するのか具体的に説明し、必要に応じて改めること。

(対応)

「研究開発実践研究」及び「大学教育実践研究」が、博士論文作成と並行して行われるものとなっており、学生への過度な負担が懸念されるとの審査意見を踏まえて、展開科目の配当年次を変更し、関係書類を改めることとした(説明資料5:「カリキュラムフロー」)(説明資料6:「履修モデル」)(説明資料4:「研究指導及び修了までのスケジュール表」)(説明資料7:「保健医療学研究科授業時間割モデル」)(説明資料8:「教員名簿(教員の氏名等)」)。

(説明)

保健医療学専攻博士後期課程の2年次における履修科目については、博士論文の作成に向けた研究指導科目として配置している「保健医療学特別研究」の他に「研究開発実践研究」と「大学教育実践研究」のみの配置としており、また、「研究開発実践研究」と「大学教育実践研究」はいずれも2単位の通年科目として、研究実践活動や授業実践活動について実務的な側面から学習する内容としており、学習内容や学習時間からも学生の過度な負担にはならないものと判断している。

しかしながら、「研究開発実践研究」及び「大学教育実践研究」は、博士論文と並行して行われるものとなっており、学生への過度な負担が懸念されるとの審査意見を踏まえて、再検討した結果、学生への負担を配慮する観点から展開科目に配置している「研究開発基盤研究」と「大学教育基盤研究」の配当年次を1年後期から1年前期へ変更することとした。併せて、「研究開発実践研究」と「大学教育実践研究」の配当年次を2年通年から1年後期～2年前期に変更し、教育課程を改めることとした。

これにより履修科目は、1年前期5科目、1年後期4科目、2年前期2科目、2年後期以降は1科目となり、配当年次を変更しても学生への過度な負荷にならないものとする。また、2年次以降に本格化する博士論文作成に専念できるものとする。

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
研究開発基盤研究 <u>1年前期</u>	研究開発基盤研究 <u>1年後期</u>
研究開発実践研究 <u>1年後期～2年前期</u>	研究開発実践研究 <u>2年通年</u>
大学教育基盤研究 <u>1年前期</u>	大学教育基盤研究 <u>1年後期</u>
大学教育実践研究 <u>1年後期～2年前期</u>	大学教育実践研究 <u>2年通年</u>

(新旧対照表) シラバス (25ページ、28ページ、31ページ、34ページ)

新	旧
研究開発基盤研究 <u>1年前期</u> 研究開発実践研究 <u>1年後期～2年前期</u> 大学教育基盤研究 <u>1年前期</u> 大学教育実践研究 <u>1年後期～2年前期</u>	研究開発基盤研究 <u>1年後期</u> 研究開発実践研究 <u>2年通年</u> 大学教育基盤研究 <u>1年後期</u> 大学教育実践研究 <u>2年通年</u>

(新旧対照表) 学則 別表2の11 (25ページ)

新	旧
研究開発基盤研究 <u>1年前期</u> 研究開発実践研究 <u>1年後期～2年前期</u> 大学教育基盤研究 <u>1年前期</u> 大学教育実践研究 <u>1年後期～2年前期</u>	研究開発基盤研究 <u>1年後期</u> 研究開発実践研究 <u>2年通年</u> 大学教育基盤研究 <u>1年後期</u> 大学教育実践研究 <u>2年通年</u>

(是正事項) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (D)

【教員組織等】

8. <教員組織の編成に関する説明が不整合>

教員組織の編成の基本方針における、専任教員の年齢構成に関する説明内容が、「13. 専任教員の年齢構成・学位保有状況」と整合していないことから、適切に改めること。

(対応)

教員組織の編成の基本方針における、専任教員の年齢構成に関する説明内容が、「13. 専任教員の年齢構成・学位保有状況」と整合していないとの意見を踏まえて、齟齬が生じないように適切な表現に改めることとした。

(説明)

「設置の趣旨等を記載した書類」の4(1)教員組織の編成の基本方針での年齢構成は、開設時における専任教員の教員組織について説明したものである。一方、「13. 専任教員の年齢構成・学位保有状況」については、完成年度の3月31日時点での状況を示す資料として求められていることから、適切な表現になるよう「設置の趣旨等を記載した書類」の4(1)教員組織の編成の基本方針に追記することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (12ページ)

新	旧
4 教員組織の編成の考え方及び特色 (1) 教員組織の編成の基本方針 (省略) 保健医療学専攻博士後期課程の専任教員の年齢構成は、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障ないよう配慮することから、 <u>開設時において40歳～49歳5人、50歳～59歳9人、60歳～64歳3人を配置することとしている。</u> <u>また、完成年度末における年齢構成は40歳～49歳3人、50歳～59歳8人、60歳～64歳5人、65歳～69歳1人となる。</u> (省略)	4 教員組織の編成の考え方及び特色 (1) 教員組織の編成の基本方針 (省略) <u>また、保健医療学専攻博士後期課程の専任教員の年齢構成は、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障ないよう配慮することから、40歳～49歳5人、50歳～59歳9人、60歳～64歳3人を配置することとしている。</u> (追加) (省略)

(是正事項) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (D)

【名称、その他】

9. <社会人入試の受験資格等が不明確>

社会人入試の受験資格について、「教育機関や医療機関等において、医療従事者・教員・研究者等として2年以上従事した者」とあるが、大学院の入学資格としては、制度上、「大学を卒業し、大学、研究所等において、二年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」と規定されているため、適切に修正すること。また、どのようにして修士の学位を有する者と同等以上の学力があることを確認するかが不明確であるため、説明すること。なお、社会人入試の受験資格の記載内容が、学則における入学資格と整合していないため、適切に改めること。

(対応)

社会人入試の受験資格が制度上の規定及び学則と整合していないとの意見を踏まえて、齟齬が生じない適切な表現に改めることとした。

(説明)

大学院博士課程（後期）の入学資格は、学校教育法施行規則第156条第6号による文部科学大臣の指定した者として平成元年文部省告示第118号で「大学を卒業し、大学、研究所等において、二年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」と規定している。また、学校教育法施行規則第156条第7号では「大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、二十四歳に達したものの」と規定している。各号とも、修士号を有していない者の大学院博士後期課程への入学資格として適用することとなるが、両方を満たすことはないと解釈できる。

本大学院の学則においても、「文部科学大臣の指定した者」及び「本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者」と規定しており、「文部科学大臣の指定した者」は学校教育法施行規則第156条第6号による平成元年文部省告示第118号の準用となる。従って、修士の学位を有していない者の大学院博士後期課程への入学資格は、いずれかに該当する者となる。

いずれについても、社会人入試に限らず大学院博士後期課程の入学資格についての規定及び学則であり、それは試験区分における受験資格（出願要件）として規定したものではないことから試験区分上の受験資格（出願要件）と学則の入学資格とは整合し得ない。

本大学院の「社会人入試」は、学力試験としての記述試験を免除するかわりに業務経歴書を活用して社会人を受け入れることを前提に設けた試験区分であるが、社会人入試での受験対象者は、一般入試と同じ、学則に定める入学資格を満たす者が条件となる。唯一異なる条件は、社会人としての経験が2年以上有するか否かであるため、社会人入試の受験資格（出願要件）として、「教育機関や医療機関等において、医療従事者・教員・研究者等として2年以上従事した者を対象とする」としている。

しかしながら、審査意見を踏まえて入学資格と社会人入試の受験資格の齟齬が生じないよ

う、「設置の趣旨等を記載した書類」の8(2)「入学者選抜の実施方法」に入学資格を前提とした「受験資格」の要件をすべて追記することとした。なお、社会人入試の受験資格については、追記の受験資格に加え、社会人の前提条件として、教育機関や医療機関等において医療従事者・教員・研究者等として2年以上従事した者（入学時までには該当する見込みの者を含む）を対象とし、適切に改めることとした。

また、どのようにして修士の学位を有する者と同等以上の学力があることを確認するかが不明確との審査意見については、専攻長及び当該領域の教員が「成績証明書、研究計画書、業務経歴書及び研究業績を示す資料」から、修士の学位を有する者と同等以上の学力の有無について確認することとしており、適宜、本人と面談を行い、専攻会議において「受験の適否」について審議・決定することとしている。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (20～21ページ)

新	旧
<p>8 入学者選抜の概要 (2) 入学者選抜の実施方法 入学者選抜の実施方法としては、保健医療学専攻博士後期課程における養成する人材の目的や入学者の受入方針を踏まえた上で、一般入試及び社会人入試により選抜する。</p> <p>① 出願資格 本学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程に出願することのできる者は、次のいずれかに該当する者とする。</p> <p>ア 修士の学位又は専門職学位を有する者及び入学時までには授与される見込みの者</p> <p>イ 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者及び入学時までには授与される見込みの者</p> <p>ウ 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)「大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者(入学時までには該当する見込みの者を含む)で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」及び「外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者(入学時までには該当する見込みの者を含む)で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者」</p> <p>エ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、本学入学までに24歳に達した者</p> <p>② 一般入試 実施時期：2月中旬 募集人員：2人 一般入試の実施方法は、事前に提出された成績証</p>	<p>8 入学者選抜の概要 (2) 入学者選抜の実施方法 入学者選抜の実施方法としては、保健医療学専攻博士後期課程における養成する人材の目的や入学者の受入方針を踏まえた上で、一般入試及び社会人入試により選抜する。</p> <p>(追加)</p> <p>① 一般入試 実施時期：2月中旬 募集人員：2人 一般入試の実施方法は、事前に提出された成績証</p>

<p>明書及び研究計画書等の書面確認をした上で、学力試験として外国語（英語）に関する記述試験、主要研究業績及び入学後の研究計画に関する口述試験を実施する。</p> <p>③ 社会人入試 実施時期：2月中旬 募集人員：1人</p> <p>社会人入試の実施方法は、事前に提出された成績証明書、研究計画書及び業務経歴書等の書面確認をした上で、主要研究業績及び入学後の研究計画に関する口述試験を実施する。なお、社会人入試の受験資格については、①の受験資格に加え、<u>社会人の前提条件として、教育機関や医療機関等において医療従事者・教員・研究者等として2年以上従事した者（入学時までには該当する見込みの者を含む）</u>を対象とする。</p>	<p>明書及び研究計画書等の書面確認をした上で、学力試験として外国語（英語）に関する記述試験、主要研究業績及び入学後の研究計画に関する口述試験を実施する。</p> <p>② 社会人入試 実施時期：2月中旬 募集人員：1人</p> <p>社会人入試の実施方法は、事前に提出された成績証明書、研究計画書及び業務経歴書等の書面確認をした上で、主要研究業績及び入学後の研究計画に関する口述試験を実施する。なお、社会人入試の受験資格については、<u>教育機関や医療機関等において、医療従事者・教員・研究者等として2年以上従事した者を対象とする。</u></p>
---	---

進学需要調査集計表(保健医療学専攻)

(新)

このアンケートは、北海道科学大学のアンケート調査項目のうち進学意向に関連した質問の一部を抜粋したものである。

問2 あなたは、北科大大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程(仮称)における人材養成モデルについて、魅力を感じられますか。

- 1 研究者養成モデルに魅力を感じる 2 大学教員養成モデルに魅力を感じる 3 魅力を感じない
4 わからない

専攻名・職種	評価	有効回答数	回答1	回答2	回答3	回答4	無回答	調査数
看護学専攻		6	4	2			0	6
リハビリテーション科学専攻		4	2	2			0	4
医療技術学専攻		5		4		1	0	5
計		15	6	8	0	1	0	15
看護師		19	9	4		6	0	19
理学療法士		5	1	3	1		0	5
義肢装具士		5	3	2			0	5
臨床工学技士		6	3	3			0	6
診療放射線技師		5	3	2			0	5
計		40	19	14	1	6	0	40
合計		55	25	22	1	7	0	55
割合(%)		100.0	45.5	40.0	1.8	12.7	—	—

問3 あなたは、北科大大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程(仮称)が設置された場合、受験を希望しますか。

- 1 受験を希望する 2 受験先の一つとして考える(在学生用) 2 将来受験を考える(医療従事者用)
3 受験を希望しない 4 わからない

専攻名・職種	評価	有効回答数	回答1	回答2	回答3	回答4	無回答	調査数
看護学専攻		6	1	4		1	0	6
リハビリテーション科学専攻		4	2	2			0	4
医療技術学専攻		5	1	1	1	2	0	5
計		15	4	7	1	3	0	15
看護師		19	1	7	4	7	0	19
理学療法士		5		3	2		0	5
義肢装具士		5		3		2	0	5
臨床工学技士		6	1	3		2	0	6
診療放射線技師		5	2	3			0	5
計		40	4	19	6	11	0	40
合計		55	8	26	7	14	0	55
割合(%)		100.0	14.5	47.3	12.7	25.5	—	—

問4 <問4は、問3で「1」又は「2」と回答された方のみ(医療従事者用)>

あなたは、北科大大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程(仮称)に合格した場合、進学を希望しますか。

1 進学を希望する 2 併願先の結果によって進学を希望する 3 進学を希望しない 4 わからない

専攻名・職種	有効回答数	回答1		回答2	回答3	回答4	無回答	調査数
		「3」1	「3」2					
看護学専攻	5	「3」1 1	「3」2 1	2		1	1	6
リハビリテーション科学専攻	4	「3」1 2	「3」2 1			1	0	4
医療技術学専攻	2	「3」1 1	「3」2 1	1			3	5
計	11	「3」1 4	「3」2 2	0 3	0 0	0 2	4	15
看護師	8	「3」1 1	「3」2 7				11	19
理学療法士	3	「3」1 3	「3」2 3				2	5
義肢装具士	3	「3」1 3	「3」2 3				2	5
臨床工学技士	4	「3」1 1	「3」2 3				2	6
診療放射線技師	5	「3」1 2	「3」2 3				0	5
計	23	「3」1 4	「3」2 19	0 0	0 0	0 0	17	40
合計	34	「3」1 8	「3」2 21	0 3	0 0	0 2	21	55
割合(%)	100.0	「3」1 23.5	「3」2 61.8	0.0 8.8	0.0 0.0	0.0 5.9	—	—

【結果】

修士課程1年次に在籍している15名及び本学卒業生を含む医療従事者40名の55名に対して調査を行った結果、保健医療学専攻博士後期課程(仮称)における人材養成モデルの「研究者養成モデルに魅力を感じる」としたものは、25名で全体の45.5%、「大学教員養成モデルに魅力を感じる」としたものは、22名で全体の40.0%であった。

進学意向については、調査対象者55名のうち、保健医療学専攻博士後期課程への「受験を希望する」としたものは、8名で全体の14.5%が受験の意思を示している。また、受験の意思を示した8名全員が保健医療学専攻博士後期課程に合格した場合、「進学を希望する」としている。

さらに本学卒業生を含む医療従事者40名のうち、保健医療学専攻博士後期課程への「将来受験を考える」としたものは、26名で全体の47.3%が将来的な受験の意思を示す結果となり、平成32年度以降の学生確保の見通しにおいても十分な結果を得られた。

進学需要調査集計表(保健医療学研究科 令和元年度修士課程1年次生)

このアンケートは、北海道科学大学大学院保健医療学研究科の令和元年度修士課程1年次生を対象に追加アンケートを行い、アンケート調査項目のうち進学意向に関連した質問の一部を抜粋したものである。

問2 あなたは、北科大大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程(仮称)における人材養成モデルについて、魅力を感じられますか。

- 1 研究者養成モデルに魅力を感じる 2 大学教員養成モデルに魅力を感じる 3 魅力を感じない
4 わからない

専攻名・職種	有効回答数	回答1	回答2	回答3	回答4	無回答	調査数
看護学専攻	7	4	2		1	0	7
リハビリテーション科学専攻	3	2	1			0	3
医療技術学専攻	4	1	3			0	4
計	14	7	6	0	1	0	14
割合(%)	100.0	50.0	42.9	0.0	7.1	二	二

問3 あなたは、北科大大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程(仮称)が設置された場合、受験を希望しますか。

- 1 受験を希望する 2 受験先の一つとして考える(在学生用) 2 将来受験を考える(医療従事者用)
3 受験を希望しない 4 わからない

専攻名・職種	有効回答数	回答1	回答2	回答3	回答4	無回答	調査数
看護学専攻	7	3	3		1	0	7
リハビリテーション科学専攻	3	1	2			0	3
医療技術学専攻	4	1	2	1		0	4
計	14	5	7	1	1	0	14
割合(%)	100.0	35.8	50.0	7.1	7.1	二	二

問4 あなたは、北科大大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程(仮称)に合格した場合、進学を希望しますか。

- 1 進学を希望する 2 併願先の結果によって進学を希望する 3 進学を希望しない 4 わからない

専攻名・職種	有効回答数	回答1	回答2	回答3	回答4	無回答	調査数
看護学専攻	6	3				1	7
リハビリテーション科学専攻	3	1	2			0	3
医療技術学専攻	3	1			1	1	4
計	12	5	2	0	1	2	14
割合(%)	100.0	41.7	16.7	0.0	8.3	二	二

【結果】

保健医療学専攻博士後期課程(仮称)の第2期生にあたる、令和元年度修士課程1年次に在籍している14名に対して追加調査を行った結果、保健医療学専攻博士後期課程における人材養成モデルの「研究者養成モデルに魅力を感じる」としたものは、7名で全体の50.0%、「大学教員養成モデルに魅力を感じる」としたものは、6名で全体の42.9%であった。

進学意向については、調査対象者14名のうち、保健医療学専攻博士後期課程への「受験を希望する」としたものは、5名で全体の35.8%が受験の意思を示している。また、受験の意思を示した5名全員が保健医療学専攻博士後期課程に合格した場合、「進学を希望する」としている。

令和3年度の第2期生についてのアンケート結果から、学内から「進学を希望する」との意志を示した者で入学定員を満たしており、医療従事者に行ったアンケート結果を合わせて鑑みると、「安定した学生確保の見通し」について十分な結果が得られた。

**北海道科学大学大学院では、平成32年4月に
保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程
(仮称、設置構想中)の開設を予定しています。**

※この資料に記載されている内容はすべて予定であり、変更になる可能性があります。

北海道科学大学大学院では、保健医療学部及び保健医療学研究科修士課程を基礎とした保健医療学専攻博士後期課程を平成32年4月に開設予定としています。

【養成する人材】

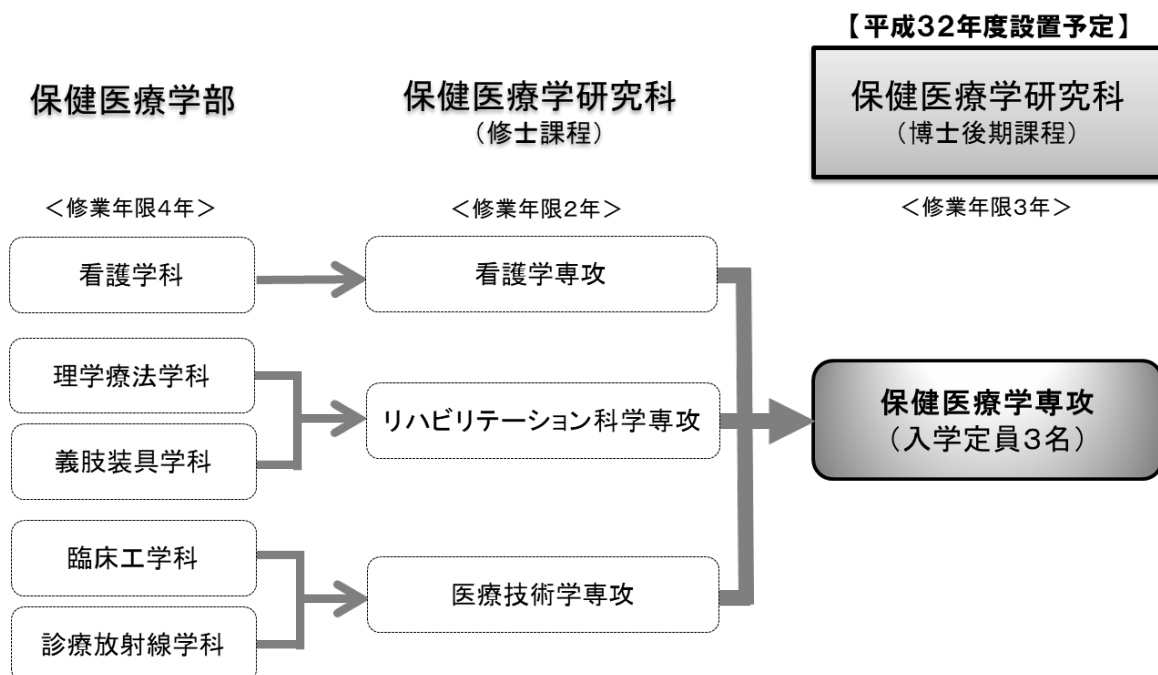
学術研究を担う者としての自覚や意識と自立して研究活動を行うに足る研究能力を有して、現代社会が直面する保健医療分野の諸課題を多角的に分析し、専門分野における問題解決に向けた理論や実践を開発することのできる研究者を養成します。

また、研究者の養成と同様の要素に加えて、大学教育を担う者としての自覚や意識と授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者を養成します。

■研究者養成モデル: 豊かな知的学識と研究倫理や研究手法に関する研究能力を有して、保健医療分野における研究課題の設定や研究活動の実施など高度な研究開発の企画運営を実践することができる人材を養成します

■大学教員養成モデル: 研究者の養成と同様の要素に加えて、授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる人材を養成します

【既設の学部・修士課程との関係図】



【設置の概要】

- 設置専攻:北海道科学大学大学院 保健医療学研究科
保健医療学専攻 博士後期課程
- 学生定員:入学定員3名／収容定員9名
- 開設時期:平成32(2020)年4月
- 設置場所:北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
- アクセス:JR手稲駅北口よりJRバスで約9分。タクシーで約5分。徒歩では約25分

【大学院として担う人材養成機能】

保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程として担う人材養成機能は、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」を主としつつ、当該人材養成機能の延長線上として、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成」を担うこととしています。

【学位授与の方針】

- 保健医療の最新の動向や諸課題の理解と研究倫理や研究方法を修得します
- 高度な研究活動を実践するための基礎となる豊かな知的学識を修得します
- 研究者や教育者としての自覚や意識と研究や教育の実践方法を修得します
- 自ら研究課題を設定し研究活動が実践できる高度な研究能力を修得します

【教育課程編成方針】

高度な学術研究を基盤とした教育を展開するとともに、狭い範囲の研究領域のみならず、幅広く高度な知識や能力が身に付く体系的な教育課程を編成します。

- 保健医療学分野における共通的な諸課題の理解や最新の研究動向と多様な研究方法等の理解とともに研究者としての規範と責務に基づく適切な判断力を修得するための科目群を配置します
- 専門分野の研究開発における俯瞰的な視点からの考察力や主体的な問題発見や解決に必要な情報の収集・分析から解決方法の検討や選択ができる能力を修得するための科目群を配置します
- 研究者や教育者としての自覚や意識の涵養及び多様な研究活動や教育活動の場を通じて研鑽を積むことにより研究活動や教育活動の在り方や実施方法を修得するための科目群を配置します
- 自己の研究課題の設定にはじまり研究計画の立案・調査・分析から研究の過程で得られた個々の成果の発表や意見交換等を通して高度な研究能力を修得するための科目群を配置します

【開設予定科目】

- 共通科目:保健医療学基盤研究、保健医療学研究方法、保健医療学研究倫理
- 専修科目:保健医療学特殊研究Ⅰ、保健医療学特殊研究Ⅱ、保健医療学特殊研究Ⅲ、保健医療学特殊研究Ⅳ、保健医療学特殊研究Ⅴ
- 展開科目:研究開発基盤研究、研究開発実践研究、大学教育基盤研究、大学教育実践研究
- 研究科目:保健医療学特別研究

【学 費】※予定

初年度納付金:1,000,000円(入学金:200,000円、授業料:800,000円)

※本学の卒業生が入学するときは、入学金が免除されます

北海道科学大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程（仮称）の
進学需要に関するアンケート調査（在学生用）

【回答欄】

【あなたの現在の在籍専攻について、お伺いします。】

次の中から、該当する専攻を選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 看護学専攻（修士課程） 2 リハビリテーション科学専攻（修士課程）
3 医療技術学専攻（修士課程）

問1 あなたは、ご自身の学位の取得についてどのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 博士の学位の取得を考えている 2 博士の学位の取得は考えていない
3 わからない

問2 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）における人材養成モデルについて、魅力を感じられますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

【研究者養成モデル】

豊かな知的学識と研究倫理や研究手法に関する研究能力を有して、保健医療分野における研究課題の設定や研究活動の実施など高度な研究開発の企画運営を実践することができる人材養成

【大学教員養成モデル】

研究者の養成と同様の要素に加えて、授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる人材養成

- 1 研究者養成モデルに魅力を感じる 2 大学教員養成モデルに魅力を感じる
3 魅力を感じない 4 わからない

問3 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）が設置された場合、受験を希望しますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 受験を希望する 2 受験先の一つとして考える
3 受験を希望しない 4 わからない

問4 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）に合格した場合、進学を希望しますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 進学を希望する 2 併願先の結果によって進学を希望する
3 進学を希望しない 4 わからない

北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）に対する
ご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

北海道科学大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程（仮称）の
進学需要に関するアンケート調査（医療従事者用）

【回答欄】

【あなたの現在の職種について、お伺いします。】

次の中から、該当する職種を選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 看護師 | 2 理学療法士 |
| 3 義肢装具士 | 4 臨床工学技士 |
| 5 診療放射線技師 | 6 その他（具体的に |

問1 あなたは、ご自身の学位の取得についてどのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 博士の学位の取得を考えている | 2 博士の学位の取得は考えていない |
| 3 わからない | |

問2 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）における人材養成モデルについて、魅力を感じられますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

【研究者養成モデル】

豊かな知的学識と研究倫理や研究手法に関する研究能力を有して、保健医療分野における研究課題の設定や研究活動の実施など高度な研究開発の企画運営を実践することができる人材養成

【大学教員養成モデル】

研究者の養成と同様の要素に加えて、授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる人材養成

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 研究者養成モデルに魅力を感じる | 2 大学教員養成モデルに魅力を感じる |
| 3 魅力を感じない | 4 わからない |

問3 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）が設置された場合、受験を希望しますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------|------------|
| 1 受験を希望する | 2 将来受験を考える |
| 3 受験を希望しない | 4 わからない |

<問4は、問3で「1」又は「2」と回答された方のみ、お答えください>

問4 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）に合格した場合、進学を希望しますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 進学を希望する | 2 進学を希望しない |
| 3 わからない | |

北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

進学需要調査集計表(保健医療学専攻)

(旧)

このアンケートは、北海道科学大学のアンケート調査項目のうち進学意向に関連した質問の一部を抜粋したものである。

問2 あなたは、北科大大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程(仮称)における人材養成モデルについて、魅力を感じられますか。

- 1 研究者養成モデルに魅力を感じる 2 大学教員養成モデルに魅力を感じる 3 魅力を感じない
4 わからない

専攻名・職種	評価	有効回答数	回答1	回答2	回答3	回答4	無回答	調査数
看護学専攻		6	4	2			0	6
リハビリテーション科学専攻		4	2	2			0	4
医療技術学専攻		5		4		1	0	5
計		15	6	8	0	1	0	15
看護師		19	9	4		6	0	19
理学療法士		5	1	3	1		0	5
義肢装具士		5	3	2			0	5
臨床工学技士		6	3	3			0	6
診療放射線技師		5	3	2			0	5
計		40	19	14	1	6	0	40
合計		55	25	22	1	7	0	55
割合(%)		100.0	45.5	40.0	1.8	12.7	—	—

問3 あなたは、北科大大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程(仮称)が設置された場合、受験を希望しますか。

- 1 受験を希望する 2 受験先の一つとして考える(在学生用) 2 将来受験を考える(医療従事者用)
3 受験を希望しない 4 わからない

専攻名・職種	評価	有効回答数	回答1	回答2	回答3	回答4	無回答	調査数
看護学専攻		6	1	4		1	0	6
リハビリテーション科学専攻		4	2	2			0	4
医療技術学専攻		5	1	1	1	2	0	5
計		15	4	7	1	3	0	15
看護師		19	1	7	4	7	0	19
理学療法士		5		3	2		0	5
義肢装具士		5		3		2	0	5
臨床工学技士		6	1	3		2	0	6
診療放射線技師		5	2	3			0	5
計		40	4	19	6	11	0	40
合計		55	8	26	7	14	0	55
割合(%)		100.0	14.5	47.3	12.7	25.5	—	—

問4 <問4は、問3で「1」又は「2」と回答された方のみ(医療従事者用)>

あなたは、北科大大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程(仮称)に合格した場合、進学を希望しますか。

1 進学を希望する 2 併願先の結果によって進学を希望する 3 進学を希望しない 4 わからない

専攻名・職種	有効回答数	回答1		回答2	回答3	回答4	無回答	調査数
		「3」1	「3」2					
看護学専攻	5	「3」1 1	「3」2 1	2		1	1	6
リハビリテーション科学専攻	4	「3」1 2	「3」2 1			1	0	4
医療技術学専攻	2	「3」1 1	「3」2 1	1			3	5
計	11	「3」1 4	「3」2 2	0 3	0 0	0 2	4	15
看護師	8	「3」1 1	「3」2 7				11	19
理学療法士	3	「3」1 3	「3」2 3				2	5
義肢装具士	3	「3」1 3	「3」2 3				2	5
臨床工学技士	4	「3」1 1	「3」2 3				2	6
診療放射線技師	5	「3」1 2	「3」2 3				0	5
計	23	「3」1 4	「3」2 19	0 0	0 0	0 0	17	40
合計	34	「3」1 8	「3」2 21	0 3	0 0	0 2	21	55
割合(%)	100.0	「3」1 23.5	「3」2 61.8	0.0 8.8	0.0 0.0	0.0 5.9	—	—

【結果】

修士課程1年次に在籍している15名及び本学卒業生を含む医療従事者40名の55名に対して調査を行った結果、保健医療学専攻博士後期課程(仮称)における人材養成モデルの「研究者養成モデルに魅力を感じる」としたものは、25名で全体の45.5%、「大学教員養成モデルに魅力を感じる」としたものは、22名で全体の40.0%であった。

進学意向については、調査対象者55名のうち、保健医療学専攻博士後期課程への「受験を希望する」としたものは、8名で全体の14.5%が受験の意思を示している。また、受験の意思を示した8名全員が保健医療学専攻博士後期課程に合格した場合、「進学を希望する」としている。

さらに本学卒業生を含む医療従事者40名のうち、保健医療学専攻博士後期課程への「将来受験を考える」としたものは、26名で全体の47.3%が将来的な受験の意思を示す結果となり、平成32年度以降の学生確保の見通しにおいても十分な結果を得られた。

**北海道科学大学大学院では、平成32年4月に
保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程
(仮称、設置構想中)の開設を予定しています。**

※この資料に記載されている内容はすべて予定であり、変更になる可能性があります。

北海道科学大学大学院では、保健医療学部及び保健医療学研究科修士課程を基礎とした保健医療学専攻博士後期課程を平成32年4月に開設予定としています。

【養成する人材】

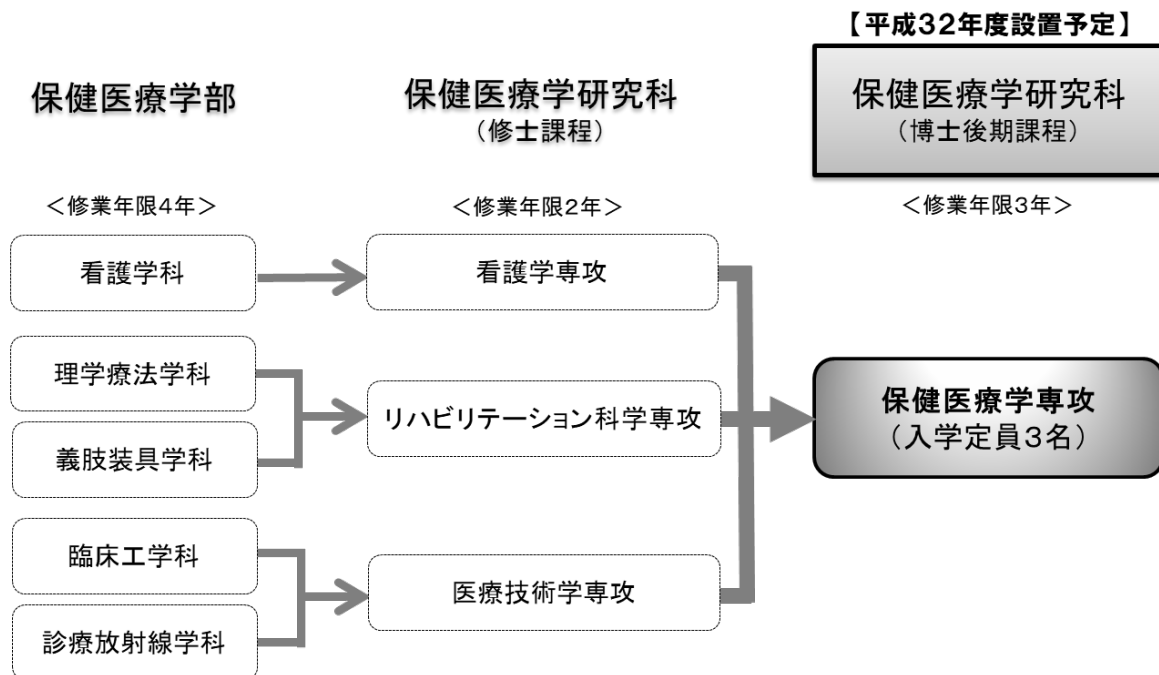
学術研究を担う者としての自覚や意識と自立して研究活動を行うに足る研究能力を有して、現代社会が直面する保健医療分野の諸課題を多角的に分析し、専門分野における問題解決に向けた理論や実践を開発することのできる研究者を養成します。

また、研究者の養成と同様の要素に加えて、大学教育を担う者としての自覚や意識と授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者を養成します。

■研究者養成モデル: 豊かな知的学識と研究倫理や研究手法に関する研究能力を有して、保健医療分野における研究課題の設定や研究活動の実施など高度な研究開発の企画運営を実践することができる人材を養成します

■大学教員養成モデル: 研究者の養成と同様の要素に加えて、授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる人材を養成します

【既設の学部・修士課程との関係図】



【設置の概要】

- 設置専攻:北海道科学大学大学院 保健医療学研究科
保健医療学専攻 博士後期課程
- 学生定員:入学定員3名／収容定員9名
- 開設時期:平成32(2020)年4月
- 設置場所:北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
- アクセス:JR手稲駅北口よりJRバスで約9分。タクシーで約5分。徒歩では約25分

【大学院として担う人材養成機能】

保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程として担う人材養成機能は、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」を主としつつ、当該人材養成機能の延長線上として、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成」を担うこととしています。

【学位授与の方針】

- 保健医療の最新の動向や諸課題の理解と研究倫理や研究方法を修得します
- 高度な研究活動を実践するための基礎となる豊かな知的学識を修得します
- 研究者や教育者としての自覚や意識と研究や教育の実践方法を修得します
- 自ら研究課題を設定し研究活動が実践できる高度な研究能力を修得します

【教育課程編成方針】

高度な学術研究を基盤とした教育を展開するとともに、狭い範囲の研究領域のみならず、幅広く高度な知識や能力が身に付く体系的な教育課程を編成します。

- 保健医療学分野における共通的な諸課題の理解や最新の研究動向と多様な研究方法等の理解とともに研究者としての規範と責務に基づく適切な判断力を修得するための科目群を配置します
- 専門分野の研究開発における俯瞰的な視点からの考察力や主体的な問題発見や解決に必要な情報の収集・分析から解決方法の検討や選択ができる能力を修得するための科目群を配置します
- 研究者や教育者としての自覚や意識の涵養及び多様な研究活動や教育活動の場を通じて研鑽を積むことにより研究活動や教育活動の在り方や実施方法を修得するための科目群を配置します
- 自己の研究課題の設定にはじまり研究計画の立案・調査・分析から研究の過程で得られた個々の成果の発表や意見交換等を通して高度な研究能力を修得するための科目群を配置します

【開設予定科目】

- 共通科目:保健医療学基盤研究、保健医療学研究方法、保健医療学研究倫理
- 専修科目:保健医療学特殊研究Ⅰ、保健医療学特殊研究Ⅱ、保健医療学特殊研究Ⅲ、保健医療学特殊研究Ⅳ、保健医療学特殊研究Ⅴ
- 展開科目:研究開発基盤研究、研究開発実践研究、大学教育基盤研究、大学教育実践研究
- 研究科目:保健医療学特別研究

【学 費】※予定

初年度納付金:1,000,000円(入学金:200,000円、授業料:800,000円)

※本学の卒業生が入学するときは、入学金が免除されます

北海道科学大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程（仮称）の
進学需要に関するアンケート調査（在学生用）

【回答欄】

【あなたの現在の在籍専攻について、お伺いします。】

次の中から、該当する専攻を選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 看護学専攻（修士課程） 2 リハビリテーション科学専攻（修士課程）
3 医療技術学専攻（修士課程）

問1 あなたは、ご自身の学位の取得についてどのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 博士の学位の取得を考えている 2 博士の学位の取得は考えていない
3 わからない

問2 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）における人材養成モデルについて、魅力を感じられますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

【研究者養成モデル】

豊かな知的学識と研究倫理や研究手法に関する研究能力を有して、保健医療分野における研究課題の設定や研究活動の実施など高度な研究開発の企画運営を実践することができる人材養成

【大学教員養成モデル】

研究者の養成と同様の要素に加えて、授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる人材養成

- 1 研究者養成モデルに魅力を感じる 2 大学教員養成モデルに魅力を感じる
3 魅力を感じない 4 わからない

問3 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）が設置された場合、受験を希望しますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 受験を希望する 2 受験先の一つとして考える
3 受験を希望しない 4 わからない

問4 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）に合格した場合、進学を希望しますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 進学を希望する 2 併願先の結果によって進学を希望する
3 進学を希望しない 4 わからない

北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）に対する
ご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

北海道科学大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程（仮称）の
進学需要に関するアンケート調査（医療従事者用）

【回答欄】

【あなたの現在の職種について、お伺いします。】

次の中から、該当する職種を選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 看護師 | 2 理学療法士 |
| 3 義肢装具士 | 4 臨床工学技士 |
| 5 診療放射線技師 | 6 その他（具体的に |

問1 あなたは、ご自身の学位の取得についてどのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 博士の学位の取得を考えている | 2 博士の学位の取得は考えていない |
| 3 わからない | |

問2 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）における人材養成モデルについて、魅力を感じられますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

【研究者養成モデル】

豊かな知的学識と研究倫理や研究手法に関する研究能力を有して、保健医療分野における研究課題の設定や研究活動の実施など高度な研究開発の企画運営を実践することができる人材養成

【大学教員養成モデル】

研究者の養成と同様の要素に加えて、授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる人材養成

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 研究者養成モデルに魅力を感じる | 2 大学教員養成モデルに魅力を感じる |
| 3 魅力を感じない | 4 わからない |

問3 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）が設置された場合、受験を希望しますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------|------------|
| 1 受験を希望する | 2 将来受験を考える |
| 3 受験を希望しない | 4 わからない |

<問4は、問3で「1」又は「2」と回答された方のみ、お答えください>

問4 あなたは、北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）に合格した場合、進学を希望しますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 進学を希望する | 2 進学を希望しない |
| 3 わからない | |

北海道科学大学大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程（仮称）に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

保健医療学研究科 修士課程入試状況

(新)

	入学 定員	平成30年度					平成31年度(令和元年度)				
		志願者	受験者	合格者	入学者	超過率	志願者	受験者	合格者	入学者	超過率
看護学専攻	5	6	6	6	6	1.20	7	7	7	7	1.40
リハビリテーション 科学専攻	4	4	4	4	4	1.00	3	3	3	3	0.75
医療技術学専攻	4	5	5	5	5	1.25	6	6	6	4	1.00
合計	13	15	15	15	15	1.15	16	16	16	14	1.07



(旧)

※資料なし(新規作成)

(新)

授業科目	大学教育基盤研究 Basic Research for University Education			博士後期課程・保健医療学専攻	
				科目コード	*****
単 位	選択2単位	科目区分	展開科目	学年・開設期	1年前期
担当教員	福良 薫 教授 宮坂 智哉 教授 早川 康之 教授 島雄 大介 教授 出口 寿久 教授 菅原 俊継 准教授 秋山 敏晴 非常勤教員				

1. 授業の目的

本科目は、高等教育機関としての大学の役割と責務や大学教育の意義や目的と在り方について概説した上で、大学教育における教員の役割や使命と教員に求められるものや教員としての適格性など、教育者としての職務における認識を深めるとともに、大学教育の歴史的変遷から高等教育政策、教育行政、教育制度、関係法令等についての理解及び学士力の構成要素と学士力に対する授業の役割や価値の認識と大学教育の質向上に向けた教育改革の取り組み、大学経営や地域連携など、現代の大学教育が抱える課題や問題について考察する。

また、授業目標の設定、到達能力の明示、授業デザイン、成績評価、シラバスの作成、自己点検等の授業設計と評価について理解するとともに、協同学習やPBL等の学習方法及びフィールド学習等の授業運営の技法について理解する。さらに、話し方、動機付け、学習意欲の醸成、演習・実習指導、実務家導入等の講義や実習の技法、教材作成、eラーニング、双方向対話型授業、学外との連携、理解度の把握、情報技術の活用などの授業運営や教育方法等について実践的な側面から考察する。

2. 授業の方法

本科目は大学教育の目的や大学教員の役割、大学教育が抱える課題や問題について考察し、さらに大学教育における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法について考察する。

具体的には、第1回～第5回は出口寿久教授が担当し、大学教育の目的や大学教員の役割及び大学教育に関する社会的・制度的及び経営的事項について考察する。第6回～第10回は秋山敏晴非常勤教員が担当し、大学教育における学生指導や教育相談等の意義や方法と大学教育が抱える課題や問題について考察する。第11回～第15回は学生が志向する博士論文研究の専門分野に応じて、科目担当教員が担当し、各専門分野における大学での授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。看護学分野は福良薫教授が担当し、看護学分野における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。理学療法学分野は宮坂智哉教授が担当し、理学療法学分野における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。義肢装具学分野は早川康之教授が担当し、義肢装具学分野における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。臨床工学分野は菅原俊継准教授が担当し、臨床工学分野における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。放射線技術学分野は島雄大介教授が担当し、放射線技術学分野における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。

講義後に各専門分野の教育の現状と課題についてレポートの提出を求める。

3. 授業計画

回数	授業、事前・事後学修の内容		時間
1	事前学修	授業科目シラバスの熟読、授業内容の把握をする	2.0
	授業	大学教育の理念及び大学教育に関する歴史と思想について理解する (※授業の全体説明を含む)	
	事後学修	研究の意義、目的についてまとめる	2.0
2	事前学修	大学教育の意義、大学教員の役割と職務の内容について調べる	2.0
	授業	大学教育の意義及び大学教員の役割と職務の内容について理解する	
	事後学修	大学教育の意義、大学教員の役割と職務の内容について考察する	2.0

3	事前学修	大学教育に関する設置基準・単位制度について調べる	2.0
	授業	大学教育に関する社会的・制度的及び経営的事項について理解する（※設置基準・単位制度について）	
	事後学修	大学教育に関する設置基準・単位制度について考察する	2.0
4	事前学修	大学教育に関する教育政策・教育行政について調べる	2.0
	授業	大学教育に関する社会的・制度的及び経営的事項について理解する（※教育政策・教育行政について）	
	事後学修	大学教育に関する教育政策・教育行政について考察する	2.0
5	事前学修	大学教育に関する教育制度・関連法規について調べる	2.0
	授業	大学教育に関する社会的・制度的及び経営的事項について理解する（※教育制度・関連法規について）	
	事後学修	大学教育に関する教育制度・関連法規について考察する	2.0
6	事前学修	大学教育に関する大学経営・地域連携について調べる	2.0
	授業	大学教育に関する社会的・制度的及び経営的事項について理解する（※大学経営・地域連携について）	
	事後学修	大学教育に関する大学経営・地域連携について考察する	2.0
7	事前学修	大学教育における学生指導について調べる	2.0
	授業	大学教育における学生指導の意義や重要性と方法について理解する	
	事後学修	大学教育における学生指導について考察する	2.0
8	事前学修	大学教育における教育相談について調べる	2.0
	授業	大学教育における教育相談の意義や重要性と方法について理解する	
	事後学修	大学教育における教育相談について考察する	2.0
9	事前学修	大学教育における進路指導とキャリア教育について調べる	2.0
	授業	大学教育における進路指導とキャリア教育の方法について理解する	
	事後学修	大学教育における進路指導とキャリア教育について考察する	2.0
10	事前学修	大学教育が抱える課題、教育改革について調べる	2.0
	授業	大学教育が抱える課題や問題及び教育改革の取り組みについて理解する	
	事後学修	大学教育が抱える課題、教育改革について考察する	2.0
11	事前学修	各専門分野の教育理念、教育の歴史と思想について調べる	2.0
	授業	各専門分野の教育理念及び当該領域の教育の歴史と思想について理解する	
	事後学修	各専門分野の教育理念、教育の歴史と思想について考察する	2.0
12	事前学修	各専門分野の教育目標・教育内容及び全体構造について調べる	2.0
	授業	各専門分野の教育目標と主な教育内容及び全体構造について理解する	
	事後学修	各専門分野の教育目標・教育内容及び全体構造について考察する	2.0
13	事前学修	各専門分野の授業場面を想定した授業設計の方法について調べる	2.0
	授業	各専門分野の具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法について理解する	
	事後学修	各専門分野の授業場面を想定した授業設計の方法について考察する	2.0
14	事前学修	各専門分野の教育課程の意義及び編成の方法と評価について調べる	2.0
	授業	各専門分野の教育課程の意義及び編成の方法と評価について理解する	
	事後学修	各専門分野の教育課程の意義及び編成の方法と評価について考察する	2.0
15	事前学修	各専門分野の教育の方法及び技術、教材作成と活用について調べる	2.0
	授業	各専門分野の教育の方法及び技術、教材作成と活用について理解する	
	事後学修	各専門分野の教育の方法及び技術、教材作成と活用について考察する	2.0

■教科書： 夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤良子；大学教員準備講座 玉川大学出版部 2017

■参考書： 必要に応じて授業内で資料を配布する。

4. DP（学位授与の方針）との対応

1. 保健医療の最新の動向や諸課題の理解と研究倫理や研究方法を修得している。

2. 高度な研究活動を実践するための基礎となる豊かな知的学識を修得している。

3. 研究者や教育者としての自覚や意識と研究や教育の実践方法を修得している。

4. 自ら研究課題を設定し研究活動が実践できる高度な研究能力を修得している。

5. 達成目標

番号	DP	達成目標
①	3	大学教育の意義、目的、職務、制度について理解し、説明することができる
②	3	大学における教育方法、教育の諸課題、改革の取り組みについて説明できる
③	3	専門分野における教育理念、目標について説明できる
④	3	専門分野における授業計画、方法、教材の作成・活用について説明できる

6. 履修に当たっての留意点

本科目は授業及び予習、復習を含めた授業外での学修の積極的な取り組みを期待する。
各回とも事前課題を各自で調べ、ゼミの中で自分の専門領域の教育のありようについて述べられるよう準備する。また、授業後はゼミでの発表や検討をもとにレポートを作成し、提出すること。提出されたレポートは添削して返却する。

7. 試験および成績評価の方法

達成目標	DP	試験	小テスト	宿題	パフォーマンス			その他	計
					レポート	発表・討議	作品		
①	3	-	-	-	20	10	-	-	30
②	3	-	-	-	20	10	-	-	30
③	3	-	-	-	20	-	-	-	20
④	3	-	-	-	20	-	-	-	20
計		-	-	-	80	20	-	-	100

「達成目標別配点」には多少の変動がある。

（旧）

授業科目	大学教育基盤研究 Basic Research for University Education			博士後期課程・保健医療学専攻	
				科目コード	*****
単 位	選択2単位	科目区分	展開科目	学年・開設期	1年後期
担当教員	福良 薫 教授 宮坂 智哉 教授 早川 康之 教授 島雄 大介 教授 出口 寿久 教授 菅原 俊継 准教授 秋山 敏晴 非常勤教員				

1. 授業の目的

本科目は、高等教育機関としての大学の役割と責務や大学教育の意義や目的と在り方について概説した上で、大学教育における教員の役割や使命と教員に求められるものや教員としての適格性など、教育者としての職務における認識を深めるとともに、大学教育の歴史的変遷から高等教育政策と制度や関係法令等についての理解及び学士力の構成要素と学士力に対する授業の役割や価値の認識と大学教育の質向上に向けた教育改革の取り組みなど、現代の大学教育が抱える課題や問題について考察する。

また、授業目標の設定、到達能力の明示、授業デザイン、成績評価、シラバスの作成、自己点検等の授業設計と評価について理解するとともに、協同学習やPBL等の学習方法及びフィールド学習等の授業運営の技法について理解する。さらに、話し方、動機付け、学習意欲の醸成、演習・実習指導、実務家導入等の講義や実習の技法、教材作成、eラーニング、双方向対話型授業、学外との連携、理解度の把握、情報技術の活用などの授業運営や教育方法等について実践的な側面から考察する。

2. 授業の方法

本科目は大学教育の目的や大学教員の役割、大学教育が抱える課題や問題について考察し、さらに大学教育における授業設計と評価及び効果的な授業運営や教育方法について考察する。

具体的には、第1回～第5回は出口寿久教授が担当し、大学教育の目的や大学教員の役割、大学教育が抱える課題や問題について考察する。第6回～第10回は秋山敏晴非常勤教員が担当し、大学教育における授業設計と評価、効果的な授業運営や教育方法について考察する。第11回～第15回は学生が志向する博士論文研究の専門分野に応じて、科目担当教員が担当し、各専門分野における大学での授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。看護学分野は福良薫教授が担当し、看護学分野における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。理学療法学分野は宮坂智哉教授が担当し、理学療法学分野における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。義肢装具学分野は早川康之教授が担当し、義肢装具学分野における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。臨床工学分野は菅原俊継准教授が担当し、臨床工学分野における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。放射線技術学分野は島雄大介教授が担当し、放射線技術学分野における授業運営や教育方法等について実践的な側面から考究する。

講義後に各専門分野の教育の現状と課題についてレポートの提出を求める。

3. 授業計画

回数	授業、事前・事後学修の内容		時間
1	事前学修	授業科目シラバスの熟読、授業内容の把握をする	2.0
	授業	授業のオリエンテーション、保健医療学研究の意義、目的	
	事後学修	研究の意義、目的についてまとめる	2.0
2	事前学修	日本の大学の歴史、高等教育機関としての大学の役割について調べる	2.0
	授業	日本の大学の歴史的変遷、高等教育機関としての大学の役割	
	事後学修	日本の大学の歴史、高等教育機関としての大学の役割について考察する	2.0
3	事前学修	大学教育の意義や目的について調べる	2.0
	授業	大学教育の意義と目的	
	事後学修	大学教育の意義や目的について考察する	2.0
4	事前学修	大学教員が求められている役割について調べる	2.0
	授業	大学教員の役割	
	事後学修	大学教員が求められている役割について考察する	2.0

5	事前学修	<u>大学教育が抱える課題について調べる</u>	2.0
	授業	<u>大学教育が抱える課題</u>	
	事後学修	<u>大学教育が抱える課題の解決方法について考察する</u>	2.0
6	事前学修	<u>科目の授業設計のための要件について調べる</u>	2.0
	授業	<u>シラバス作成の意義と方法</u>	
	事後学修	<u>シラバス作成の要点についてまとめる</u>	2.0
7	事前学修	<u>単位時間の授業設計のための要件について調べる</u>	2.0
	授業	<u>指導案作成の意義と方法</u>	
	事後学修	<u>指導案作成の要点についてまとめる</u>	2.0
8	事前学修	<u>学習者の理解を深める指導の要件について調べる</u>	2.0
	授業	<u>「伝えること」を重視した授業の技術</u>	
	事後学修	<u>伝える授業の要点についてまとめる</u>	2.0
9	事前学修	<u>学習者の思考を促す指導の要件について調べる</u>	2.0
	授業	<u>「考えさせること」を重視した授業の技術</u>	
	事後学修	<u>考えさせる授業の要点についてまとめる</u>	2.0
10	事前学修	<u>学習評価の役割について調べる</u>	2.0
	授業	<u>学習評価の意義と方法</u>	
	事後学修	<u>多彩な評価の方法についてまとめる</u>	2.0
11	事前学修	<u>各専門分野の教育の歴史について調べる</u>	2.0
	授業	<u>各専門分野の教育の歴史</u>	
	事後学修	<u>各専門分野の教育の歴史について考察する</u>	2.0
12	事前学修	<u>各専門分野の教育制度を支える法及び関連法規について調べる</u>	2.0
	授業	<u>各専門分野の教育制度を支える法及び関連法規</u>	
	事後学修	<u>各専門分野の教育制度を支える法及び関連法規について考察する</u>	2.0
13	事前学修	<u>各専門分野の教育方法の特徴について調べる</u>	2.0
	授業	<u>各専門分野の教育方法（授業・演習・実習）の特徴</u>	
	事後学修	<u>各専門分野の教育方法の特徴を考察する</u>	2.0
14	事前学修	<u>各専門分野の評価方法について調べる</u>	2.0
	授業	<u>各専門分野の評価方法（パフォーマンス、ルーブリック、ポートフォリオなど）</u>	
	事後学修	<u>授業形態ごとにどの評価方法が適切か考察する</u>	2.0
15	事前学修	<u>各専門分野の卒後教育について調べる</u>	2.0
	授業	<u>各専門分野の生涯学習</u>	
	事後学修	<u>各専門分野のキャリア形成について考察する</u>	2.0

■教科書： 夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤良子；大学教員準備講座 玉川大学出版部 2017

■参考書： 必要に応じて授業内で資料を配布する。

4. DP（学位授与の方針）との対応

- 1. 保健医療の最新の動向や諸課題の理解と研究倫理や研究方法を修得している。
- 2. 高度な研究活動を実践するための基礎となる豊かな知的学識を修得している。
- 3. 研究者や教育者としての自覚や意識と研究や教育の実践方法を修得している。
- 4. 自ら研究課題を設定し研究活動が実践できる高度な研究能力を修得している。

5. 達成目標

番号	DP	達成目標
①	3	大学教育の意義、目的について理解し、説明することができる
②	3	大学における教育方法、効果的な授業形態について説明できる
③	3	専門分野における授業の評価方法について説明できる
④	3	専門分野における生涯教育について説明できる

6. 履修に当たっての留意点

本科目は授業及び予習、復習を含めた授業外での学修の積極的な取り組みを期待する。
 各回とも事前課題を各自で調べ、ゼミの中で自分の専門領域の教育のありようについて述べられるよう準備する。また、授業後はゼミでの発表や検討をもとにレポートを作成し、提出すること。提出されたレポートは添削して返却する。

7. 試験および成績評価の方法

達成目標	DP	試験	小テスト	宿題	パフォーマンス			その他	計
					レポート	発表・討議	作品		
①	3	-	-	-	20	10	-	-	30
②	3	-	-	-	20	10	-	-	30
③	3	-	-	-	20	-	-	-	20
④	3	-	-	-	20	-	-	-	20
計		-	-	-	80	20	-	-	100

「達成目標別配点」には多少の変動がある。

研究指導及び修了までのスケジュール表（保健医療学専攻）

(新)

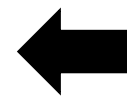
年次	学期	履修指導	履修科目					研究指導	到達目標 (進捗の目安)				
			共通科目	専修科目			展開科目			研究科目			
1年次	前	ガイダンス	保健医療学基礎研究	保健医療学倫理	保健医療学特殊研究I	保健医療学特殊研究II	保健医療学特殊研究III	保健医療学特殊研究IV	保健医療学特殊研究V	研究開発基盤研究	大学教育基盤研究	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文研究計画概要提出 4月指導教員の確定 スケジュールの把握 研究計画書提出 研究計画概要報告 	<ul style="list-style-type: none"> 研究倫理、保健医療学および関連分野の基盤的知識などの素養獲得 研究の意義の確認
	後		保健医療学研究方法							研究開発実践研究	大学教育実践研究	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの立案、研究計画確定 研究計画報告会 倫理審査申請(必要に応じて) 	<ul style="list-style-type: none"> 研究方法の実際的な手法の獲得 研究の新規性の確認 研究倫理申請の手順、方法の獲得
2年次	前	履修計画変更										<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 研究の実践
	後											<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況の確認 中間発表会 研究計画の修正 	<ul style="list-style-type: none"> 研究の実践(継続) 研究の実践で得られた結果の集約、考察 論文構想着手
3年次	前											<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況の確認(削除) 	<ul style="list-style-type: none"> 論文作成着手
	後											<ul style="list-style-type: none"> 博士論文作成、提出 1月審査委員の選任 学位論文発表会 学位論文審査 最終試験(筆記又は口述) 	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文の完成 学位論文発表、審査対応、最終試験の対応

※背景色の灰色は、必修科目

(旧)

年次	学期	履修指導	履修科目					研究指導	到達目標 (進捗の目安)				
			共通科目	専修科目			展開科目			研究科目			
1年次	前	ガイダンス	保健医療学基礎研究	保健医療学倫理	保健医療学特殊研究I	保健医療学特殊研究II	保健医療学特殊研究III	保健医療学特殊研究IV	保健医療学特殊研究V	研究開発基盤研究	大学教育基盤研究	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文研究計画概要提出(追加) スケジュールの把握 研究計画書提出 研究計画概要報告 	<ul style="list-style-type: none"> 研究倫理、保健医療学および関連分野の基盤的知識などの素養獲得 研究の意義の確認
	後		保健医療学研究方法							研究開発基盤研究	大学教育基盤研究	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの立案、研究計画確定 研究計画報告会 倫理審査申請(必要に応じて) 	<ul style="list-style-type: none"> 研究方法の実際的な手法の獲得 研究の新規性の確認 研究倫理申請の手順、方法の獲得
2年次	前	履修計画変更								研究開発実践研究	大学教育実践研究	<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 研究の実践
	後											<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況の確認 中間発表会 研究計画の修正 	<ul style="list-style-type: none"> 研究の実践(継続) 研究の実践で得られた結果の集約、考察 論文構想着手
3年次	前											<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況の確認 研究計画書中間審査 	<ul style="list-style-type: none"> 論文作成着手
	後											<ul style="list-style-type: none"> 博士論文作成、提出(追加) 学位論文発表会 学位論文審査 最終試験(筆記又は口述) 	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文の完成 学位論文発表、審査対応、最終試験の対応

※背景色の灰色は、必修科目



カリキュラムフロー (保健医療学専攻)

(新)

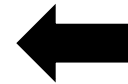
必修科目は赤塗り、選択科目は青塗り、()内の数字は単位数

No.	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	配当科目							
			1年		2年		3年			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
1	保健医療の最新の動向や諸課題の理解と研究倫理や研究方法を修得している	保健医療学分野における共通的な諸課題の理解や最新の研究動向と多様な研究方法等の理解とともに研究者としての規範と責務に基づく適切な判断力を修得するための科目群を配置する	保健医療学 基盤研究(2)	保健医療学 研究方法(2)						
2	高度な研究活動を実践するための基礎となる豊かな知的学識を修得している	専門分野の研究開発における俯瞰的な視点からの考察力や主体的な問題発見や解決に必要な情報の収集・分析から解決方法の検討や選択ができる能力を修得するための科目群を配置する	保健医療学特殊研究Ⅰ(2)							
			保健医療学特殊研究Ⅱ(2)							
			保健医療学特殊研究Ⅲ(2)							
			保健医療学特殊研究Ⅳ(2)							
			保健医療学特殊研究Ⅴ(2)							
3	研究者や教育者としての自覚や意識と研究や教育の実践方法を修得している	研究者や教育者としての自覚や意識の涵養及び多様な研究活動や教育活動の場を通じて研鑽を積むことにより研究活動や教育活動の在り方や実施方法を修得するための科目群を配置する	研究開発基盤研究(2)	研究開発実践研究(2)						
			大学教育基盤研究(2)	大学教育実践研究(2)						
4	自ら研究課題を設定し研究活動が実践できる高度な研究能力を修得している	自己の研究課題の設定にはじまり研究計画の立案・調査・分析から研究の過程で得られた個々の成果の発表や意見交換等を通して高度な研究能力を修得するための科目群を配置する	保健医療学特別研究(12)							

(旧)

必修科目は赤塗り、選択科目は青塗り、()内の数字は単位数

No.	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	配当科目							
			1年		2年		3年			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
1	保健医療の最新の動向や諸課題の理解と研究倫理や研究方法を修得している	保健医療学分野における共通的な諸課題の理解や最新の研究動向と多様な研究方法等の理解とともに研究者としての規範と責務に基づく適切な判断力を修得するための科目群を配置する	保健医療学 基盤研究(2)	保健医療学 研究方法(2)						
			保健医療学 研究倫理(2)							
2	高度な研究活動を実践するための基礎となる豊かな知的学識を修得している	専門分野の研究開発における俯瞰的な視点からの考察力や主体的な問題発見や解決に必要な情報の収集・分析から解決方法の検討や選択ができる能力を修得するための科目群を配置する	保健医療学特殊研究Ⅰ(2)							
			保健医療学特殊研究Ⅱ(2)							
			保健医療学特殊研究Ⅲ(2)							
			保健医療学特殊研究Ⅳ(2)							
			保健医療学特殊研究Ⅴ(2)							
3	研究者や教育者としての自覚や意識と研究や教育の実践方法を修得している	研究者や教育者としての自覚や意識の涵養及び多様な研究活動や教育活動の場を通じて研鑽を積むことにより研究活動や教育活動の在り方や実施方法を修得するための科目群を配置する		研究開発基盤研究(2)	研究開発実践研究(2)					
				大学教育基盤研究(2)	大学教育実践研究(2)					
4	自ら研究課題を設定し研究活動が実践できる高度な研究能力を修得している	自己の研究課題の設定にはじまり研究計画の立案・調査・分析から研究の過程で得られた個々の成果の発表や意見交換等を通して高度な研究能力を修得するための科目群を配置する	保健医療学特別研究(12)							



履修モデル(保健医療学専攻)

(新)

●研究者の養成

豊かな知的学識と研究倫理や研究手法に関する研究能力を有して、保健医療分野における研究課題の設定や研究活動の実施など高度な研究開発の企画運営を実践することができる人材を養成する。

修了後の進路としては、医療法人等が設置する研究所や研究機関及び民間企業の研究部門等において、研究開発や技術開発を担う研究職として活躍することが想定される。

Table with 8 columns: 学年, 科目区分, 1年前期, 1年後期, 2年前期, 2年後期, 3年前期, 3年後期, 合計単位数. Rows include 共通科目, 専修科目, 展開科目, 研究科目, and 合計単位数.

※授業科目名に付されているカッコは、必修・選択の区分と単位数

*1専修科目で「保健医療学特殊研究Ⅱ」を選択した場合の履修モデル(指導教員の担当により異なる)

(新)

●大学教員の養成

研究者の養成と同様の要素に加えて、授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる人材を養成する。

修了後の進路としては、国立大学、公立大学、私立大学などの高等教育機関において、専門分野の教育・研究に関する職務を担う教育職として活躍することが想定される。

Table with 8 columns: 学年, 科目区分, 1年前期, 1年後期, 2年前期, 2年後期, 3年前期, 3年後期, 合計単位数. Rows include 共通科目, 専修科目, 展開科目, 研究科目, and 合計単位数.

※授業科目名に付されているカッコは、必修・選択の区分と単位数

*2専修科目で「保健医療学特殊研究Ⅳ」を選択した場合の履修モデル(指導教員の担当により異なる)

(旧)

●研究者の養成

豊かな知的学識と研究倫理や研究手法に関する研究能力を有して、保健医療分野における研究課題の設定や研究活動の実施など高度な研究開発の企画運営を実践することができる人材を養成する。

修了後の進路としては、医療法人等が設置する研究所や研究機関及び民間企業の研究部門等において、研究開発や技術開発を担う研究職として活躍することが想定される。

Table with 8 columns: 学年, 科目区分, 1年前期, 1年後期, 2年前期, 2年後期, 3年前期, 3年後期, 合計単位数. Rows include 共通科目, 専修科目, 展開科目, 研究科目, and 合計単位数.

※授業科目名に付されているカッコは、必修・選択の区分と単位数

*1専修科目で「保健医療学特殊研究Ⅱ」を選択した場合の履修モデル(指導教員の担当により異なる)

(旧)

●大学教員の養成

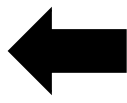
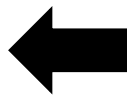
研究者の養成と同様の要素に加えて、授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる人材を養成する。

修了後の進路としては、国立大学、公立大学、私立大学などの高等教育機関において、専門分野の教育・研究に関する職務を担う教育職として活躍することが想定される。

Table with 8 columns: 学年, 科目区分, 1年前期, 1年後期, 2年前期, 2年後期, 3年前期, 3年後期, 合計単位数. Rows include 共通科目, 専修科目, 展開科目, 研究科目, and 合計単位数.

※授業科目名に付されているカッコは、必修・選択の区分と単位数

*2専修科目で「保健医療学特殊研究Ⅳ」を選択した場合の履修モデル(指導教員の担当により異なる)



保健医療学研究科（修士課程・博士後期課程）授業時間割モデル
（新）

前期	修 士 課 程						博 士 後 期 課 程			
	看護学専攻	リハビリテーション科学専攻	医療技術学専攻	看護学専攻	リハビリテーション科学専攻	医療技術学専攻	保 健 医 療 学 専 攻			
	1 年			2 年			1 年	2 年	3 年	
月	1	保健医療学特論 (C105)								
	2	医療倫理学特論 (C105)								
	3	看護学研究方法論 (C221)	理学療法学研究方法論 (C222)	放射線技術学研究方法論 (C223)						
	4	地域看護学特論 (C221)	義肢装具学研究方法論 (C222)	臨床工学研究方法論 (C223)						
	5							研究開発基盤研究 (C106)		
火	1	看護倫理学特論 (C221)	リハビリテーション学特論 (C222)	医療情報学特論 (C223)						
	2	ヘルスプロモーション特論 (C221)	生活活動支援学特論 (C222)	放射線科学特論 (C223)						
	3								保健医療学特別研究 (C106)	
	4								大学教育実践研究 (C106)	
	5				看護学演習 (C221)	理学療法学演習 (C222)	義肢装具学演習 (C105)	臨床工学演習 (C223)	放射線技術学演習 (C106)	
水	1	リハビリテーション看護学特論 (C221)	医療情報学特論 (C222)	医用生体工学特論 (C223)						
	2	看護教育学特論 (C221)	理学療法学特論 (C222)	臨床医学特論 (C223)						
	3								保健医療学基盤研究 (C106)	
	4								保健医療学特別研究 (C106)	
	5				看護学特別研究 (C221)	理学療法学特別研究 (C222)	義肢装具学特別研究 (C105)	臨床工学特別研究 (C223)	放射線技術学特別研究 (C106)	
木	1	看護技術学特論 (C221)	義肢装具学動作分析特論 (C222)	診療画像技術学特論 (C223)						
	2	成人看護学特論 (C221)		核医学検査技術学特論 (C223)						
	3	母子看護学特論 (C221)								
	4								保健医療学研究倫理 (C106)	
	5								大学教育基盤研究 (C106)	
金	1								保健医療学特殊研究 I II III IV V (C105・106・221・222・223)	
	2								研究開発実践研究 (C106)	
	3									保健医療学特別研究 (C106)
	4	老年看護学特論 (C221)								
	5	看護学特別研究 (C221)	理学療法学特別研究 (C222)	義肢装具学特別研究 (C105)	臨床工学特別研究 (C223)	放射線技術学特別研究 (C106)				

保健医療学研究科（修士課程・博士後期課程）授業時間割モデル
（新）

後期	修 士 課 程						博 士 後 期 課 程			
	看護学専攻	リハビリテーション科学専攻	医療技術学専攻	看護学専攻	リハビリテーション科学専攻	医療技術学専攻	保 健 医 療 学 専 攻			
	1 年			2 年			1 年	2 年	3 年	
月	1	健康管理学特論 (C105)								
	2	医療安全学特論 (C105)								
	3							保健医療学研究方法 (C106)		
	4							保健医療学特別研究 (C106)		
	5				看護学特別研究 (C221)	理学療法学特別研究 (C222)	義肢装具学特別研究 (C105)	臨床工学特別研究 (C223)	放射線技術学特別研究 (C106)	
火	1	感染看護学特論 (C221)	リハビリテーション工学特論 (C222)	医療マネジメント特論 (C223)						
	2	看護管理学特論 (C221)	リハビリテーション医学特論 (C222)	医療統計学特論 (C223)						
	3									
	4							保健医療学特殊研究 I II III IV V (C105・106・221・222・223)		
	5									
水	1	看護技術学特論 (C221)	理学療法評価学特論 (C222)	医用機器学特論 (C223)						
	2	成人看護学特論 (C221)	理学療法治療学特論 (C222)	生体機能代行技術学特論 (C223)						
	3	母子看護学特論 (C221)		医用安全管理学特論 (C223)						
	4									
	5									
木	1	老年看護学特論 (C221)	義肢装具学特論 (C222)	放射線治療技術学特論 (C223)						
	2	地域看護学特論 (C221)	応用義肢装具学特論 (C222)	医用画像情報学特論 (C223)						
	3			放射線安全管理学特論 (C223)						
	4									保健医療学特別研究 (C106)
	5									
金	1							研究開発実践研究 (C106)		
	2							大学教育実践研究 (C106)		
	3								保健医療学特別研究 (C106)	
	4	看護学演習 (8回) (C221)	理学療法学演習 (8回) (C222)	義肢装具学演習 (8回) (C105)	臨床工学演習 (8回) (C223)	放射線技術学演習 (8回) (C106)				
	5	看護学特別研究 (C221)	理学療法学特別研究 (C222)	義肢装具学特別研究 (C105)	臨床工学特別研究 (C223)	放射線技術学特別研究 (C106)				

保健医療学研究科（修士課程・博士後期課程）授業時間割モデル
（旧）

前期	修 士 課 程						博 士 後 期 課 程			
	看護学専攻	リハビリテーション科学専攻	医療技術学専攻	看護学専攻	リハビリテーション科学専攻	医療技術学専攻	保 健 医 療 学 専 攻			
	1 年			2 年			1 年	2 年	3 年	
月	1	保健医療学特論 (C105)								
	2	医療倫理学特論 (C105)								
	3	看護学研究方法論 (C221)	理学療法学研究方法論 (C222)	放射線技術学研究方法論 (C223)						
	4	地域看護学特論 (C221)	義肢装具学研究方法論 (C222)	臨床工学研究方法論 (C223)						
	5									
火	1	看護倫理学特論 (C221)	リハビリテーション学特論 (C222)	医療情報学特論 (C223)						
	2	ヘルスプロモーション特論 (C221)	生活活動支援学特論 (C222)	放射線科学特論 (C223)						
	3								保健医療学特別研究 (C106)	
	4								大学教育実践研究 (C106)	
	5				看護学演習 (C221)	理学療法学演習 (C222)	義肢装具学演習 (C105)	臨床工学演習 (C223)	放射線技術学演習 (C106)	
水	1	リハビリテーション看護学特論 (C221)	医療情報学特論 (C222)	医用生体工学特論 (C223)						
	2	看護教育学特論 (C221)	理学療法学特論 (C222)	臨床医学特論 (C223)						
	3								保健医療学基盤研究 (C106)	
	4								保健医療学特別研究 (C106)	
	5				看護学特別研究 (C221)	理学療法学特別研究 (C222)	義肢装具学特別研究 (C105)	臨床工学特別研究 (C223)	放射線技術学特別研究 (C106)	
木	1	看護技術学特論 (C221)	義肢装具学動作分析特論 (C222)	診療画像技術学特論 (C223)						
	2	成人看護学特論 (C221)		核医学検査技術学特論 (C223)						
	3	母子看護学特論 (C221)								
	4								保健医療学研究倫理 (C106)	
	5									
金	1								保健医療学特殊研究 I II III IV V (C105・106・221・222・223)	
	2								研究開発実践研究 (C106)	
	3									保健医療学特別研究 (C106)
	4	老年看護学特論 (C221)								
	5	看護学特別研究 (C221)	理学療法学特別研究 (C222)	義肢装具学特別研究 (C105)	臨床工学特別研究 (C223)	放射線技術学特別研究 (C106)				

保健医療学研究科（修士課程・博士後期課程）授業時間割モデル
（旧）

後期	修 士 課 程						博 士 後 期 課 程				
	看護学専攻	リハビリテーション科学専攻	医療技術学専攻	看護学専攻	リハビリテーション科学専攻	医療技術学専攻	保 健 医 療 学 専 攻				
	1 年			2 年			1 年	2 年	3 年		
月	1	健康管理学特論 (C105)									
	2	医療安全学特論 (C105)									
	3							保健医療学研究方法 (C106)			
	4							保健医療学特別研究 (C106)			
	5				看護学特別研究 (C221)	理学療法学特別研究 (C222)	義肢装具学特別研究 (C105)	臨床工学特別研究 (C223)	放射線技術学特別研究 (C106)		
火	1	感染看護学特論 (C221)	リハビリテーション工学特論 (C222)	医療マネジメント特論 (C223)							
	2	看護管理学特論 (C221)	リハビリテーション医学特論 (C222)	医療統計学特論 (C223)							
	3							研究開発基盤研究 (C106)			
	4							保健医療学特殊研究 I II III IV V (C105・106・221・222・223)			
	5										
水	1	看護技術学特論 (C221)	理学療法評価学特論 (C222)	医用機器学特論 (C223)							
	2	成人看護学特論 (C221)	理学療法治療学特論 (C222)	生体機能代行技術学特論 (C223)							
	3	母子看護学特論 (C221)		医用安全管理学特論 (C223)							
	4							大学教育基盤研究 (C106)			
	5										
木	1	老年看護学特論 (C221)	義肢装具学特論 (C222)	放射線治療技術学特論 (C223)							
	2	地域看護学特論 (C221)	応用義肢装具学特論 (C222)	医用画像情報学特論 (C223)							
	3			放射線安全管理学特論 (C223)							
	4									保健医療学特別研究 (C106)	
	5										
金	1								研究開発実践研究 (C106)		
	2								大学教育実践研究 (C106)		
	3								保健医療学特別研究 (C106)		
	4	看護学演習 (8回) (C221)	理学療法学演習 (8回) (C222)	義肢装具学演習 (8回) (C105)	臨床工学演習 (8回) (C223)	放射線技術学演習 (8回) (C106)					
	5	看護学特別研究 (C221)	理学療法学特別研究 (C222)	義肢装具学特別研究 (C105)	臨床工学特別研究 (C223)	放射線技術学特別研究 (C106)					